

(幼稚園)

自ら体を動かして遊ぶ子を育てるための援助の工夫

— 戸外での運動遊びを通して —



浦添市立神森幼稚園

松原 朝子



目 次

I	テーマ設定理由	3
II	目指す子ども像	4
III	研究の目標	4
IV	研究仮説	4
1	基本仮説	4
2	作業仮説	4
V	研究構想図	5
VI	研究内容	
1	4歳児・5歳児の運動に関する発達の特性について	6
2	幼児期の運動遊びについて	6～8
3	幼児が自ら体を動かして遊ぶようになるための援助の工夫	8～13
4	運動遊びに関する年間指導計画	14～17
VII	保育実践	
1	検証保育の全体計画	18
2	検証保育 実践事例1	19～21
3	検証保育 実践事例2	22～26
VIII	研究の考察	
1	作業仮説（1）の検証	27～28
2	作業仮説（2）の検証	28～29
3	作業仮説（3）の検証	29～32
IX	研究の成果と課題	
1	成果	32
2	課題	32
	おわりに	33
	主な参考・引用文献	33



自ら体を動かして遊ぶ子を育てるための援助の工夫

— 戸外での運動遊びを通して —

浦添市立神森幼稚園 松原 朝子

【要約】

本研究は、戸外での運動遊びを通して、様々な運動活動を経験し、体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことによって、自ら体を動かして遊ぶ子を育てることを目指し、年間指導計画の作成や援助の工夫を試みたものである。幼児が進んで体を動かして遊びたいような活動を展開し、援助を工夫したことで、幼児は一つひとつの運動遊びができた喜びを味わいながら、自ら体を動かして遊ぶ姿が見られるようになった。

キーワード □自ら体を動かして遊ぶ子 □運動遊び □年間指導計画 □教師の援助 □家庭との連携

I テーマ設定理由

近年、幼児を取り巻く地域社会の環境の変化に伴い、戸外で子どもたちが安心して遊べる場が減りつつある。その為、子どもたちは、家の中でテレビやビデオを視聴したり、ゲームや既製玩具を使って遊ぶなど、室内遊びを楽しむ傾向にあり、体を思い切り動かして遊ぶ経験が乏しくなっている。平成17年1月に出された中央教育審議会答申『子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について』の中でも、社会の急激な変化等に伴う地域社会や家庭での教育力の低下により、子どもの育ちに様々な変化が見られるとし、その中に運動能力の低下もあげられている。

昨年度改訂された幼稚園教育要領「健康」の内容の取扱いの中でも、子どもの運動能力の低下を受けて、新たに「十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること」と示され、幼児期から運動への意欲を育てることの重要性も明記されている。

また、幼稚園教育要領「健康」の領域の中で「幼児期は身体機能が著しく発達する時期」とされ、幼児期に体を十分に動かして遊ぶことは、身体機能の発達を促す上でも重要であることが考えられる。

幼児が体を思い切り動かして遊ぶ場として、戸外は最適であると考えられる。戸外では、室内とは異なり、解放感を味わいながら、伸び伸びと様々な

活動を展開することができる良さがある。幼稚園では、戸外に出て思い切り遊ぶことができる環境がある。その環境を十分に活用することで、幼児が解放感を感じながら、体を動かす心地よさを味わうことができるであろうと考える。

本園の子どもたちは明るく元気があり活発で、室内遊びでは、自らやりたい遊びを見つけてはいろいろなアイデアを出して遊びを楽しむ姿が見られる。しかし、戸外に出ると最初は喜んで遊ぶが、しばらくすると室内に戻り、ままごとや製作遊び等の室内遊びを楽しみ、あまり体を動かして遊ぼうとしない。

7月に幼稚園で行ったアンケートによると「子どもだけで遊びに行かせるのは心配」「小さい子がいるためなかなか外に連れて行くことができない」などの理由から降園後、室内遊びをしている子が約半数（約51%）いた。外で遊ぶ経験が少ないことも戸外遊びが続かない原因の一つとして考えられる。しかし、「戸外遊びは好きですか」の問いには約8割（約81%）の子が「とっても好き」と答えていた。子どもたちが大好きな戸外遊びを工夫することで、体を動かす活動につながるのではと考える。

これまでの自分自身の保育を振り返ってみると、子どもたちが戸外で自ら体を十分に動かして遊びたいような魅力ある内容や環境作りをしてい

ただろうか、また、活動（遊び）の中で幼児の発達を踏まえた一人一人の理解を行い、それを踏まえた援助ができていただろうか、という反省点がある。

4歳児と5歳児では、発達の特性や能力も異なり、それぞれにあった内容、環境でなければ幼児の興味や関心は引き出せない。発達の特性や能力をより理解することで、それぞれにあった援助や環境を工夫する手立てが見つかる考える。

そこで、4歳児・5歳児それぞれの発達の特性を踏まえた運動遊びに関する年間指導計画を作成し、発達に即した活動の内容や援助の工夫を行うことで、幼児の運動遊びに対する興味・関心や自発性を促し、進んで体を動かす心地よさを十分に味わうことで運動遊びの楽しさを知り、自ら体を動かして遊びを楽しむ幼児が育つであろうと考え、本テーマを設定した。

Ⅱ 目指す子ども像

自ら体を動かして遊ぶことを楽しむ子

Ⅲ 研究の目標

幼児が自ら体を動かして遊ぶようになるために、発達段階にあった運動遊びに関する年間指導計画を作成し、活動の内容や援助の工夫を図る。

Ⅳ 研究仮説

1 基本仮説

発達の特性を踏まえた運動遊びに関する年間指導計画を作成し、発達に即した活動の内容や援助の工夫を行うことで、運動遊びへの興味・関心が高まり、自ら体を動かして遊ぶ子が育つであろう。

2 作業仮説

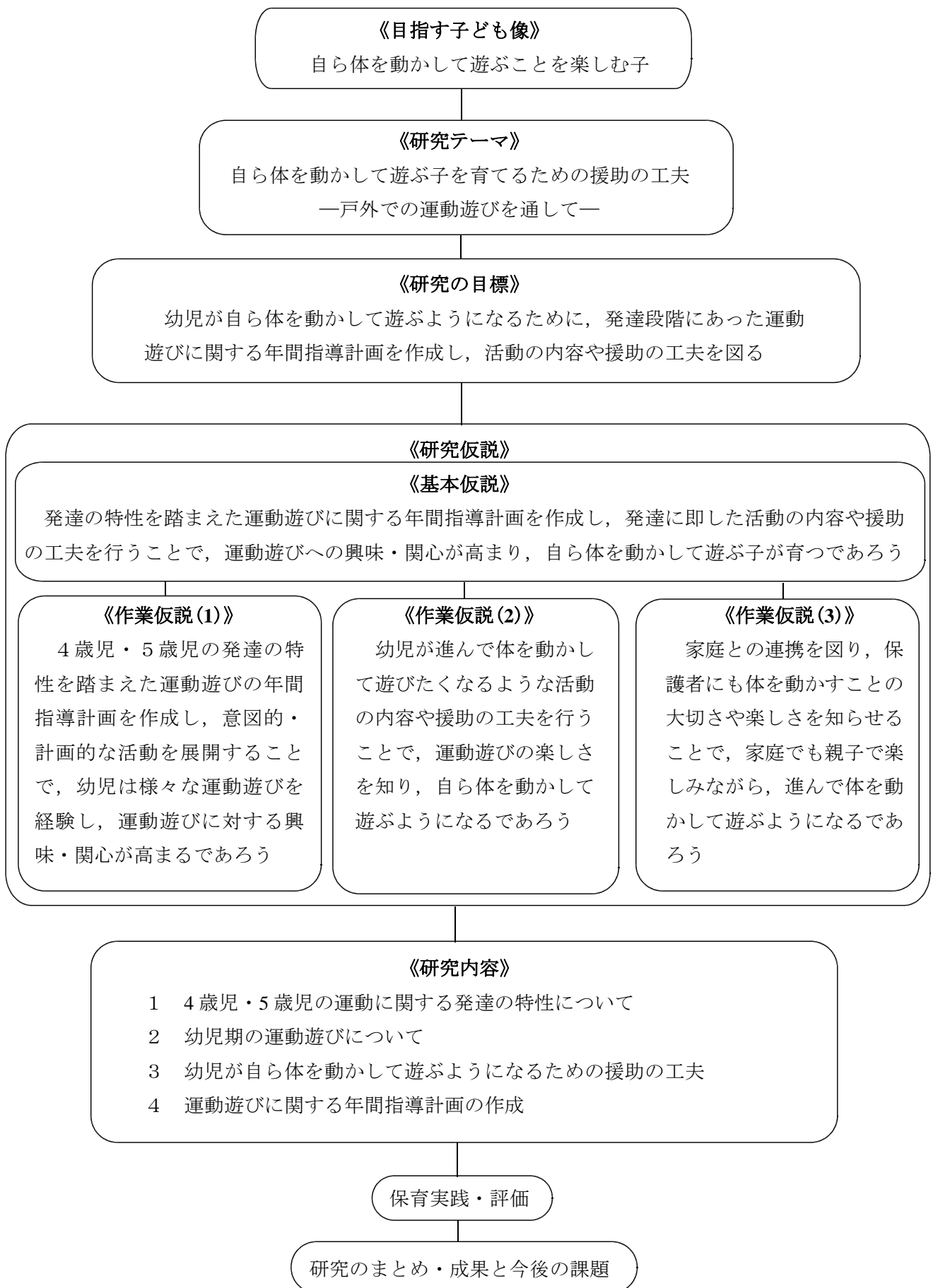
(1) 4歳児・5歳児の発達の特性を踏まえた運動遊びの年間指導計画を作成し、意図的・計画的な活動を展開することで、幼児は様々な

運動遊びを経験し、運動遊びに対する興味・関心が高まるであろう。

(2) 幼児が進んで体を動かして遊びたいくなるような活動の内容や援助の工夫を行うことで、運動遊びの楽しさを知り、自ら体を動かして遊ぶようになるであろう。

(3) 家庭との連携を図り、保護者にも体を動かすことの大切さや楽しさを知らせることで、家庭でも親子で楽しみながら、進んで体を動かして遊ぶようになるであろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 4歳児・5歳児の運動に関する発達の特性について

(1) 幼児期の発達の特性

幼稚園教育要領解説の中で、「幼児期は、身体が著しく発育するとともに、運動機能が急速に発達する時期である。そのために自分の力で取り組むことができることが多くなり、幼児の活動性は著しく高まる。そして、ときには、全身で物事に取り組み、我を忘れて活動に没頭することもある」と明記している。

幼児期は体を動かすことを好み、遊びの中で全身を使って活動する時期であり、それが本来の幼児の姿でもあるとされている。体を十分に動かして遊ぶ中で幼児は、さらに自ら身体諸機能の発達を促していく。

(2) 4歳児の発達の特性

高橋保子氏によると、4歳になると「心身共にダイナミックな発達を見せ、幼児らしい様相になる」とし、「機能的に整った体を存分に使って粗大運動を楽しむ年齢である」と述べている。

また、岡田正章氏らによると、4歳児は「基本的な運動技能も数多く身につけ、リズムカルな動きや細かい動きもできるようになり、集団で行う鬼遊びや簡単なゲームなども遊べるようになる」としている。

4歳児は、上記でも示されているように“育ち盛り”の時期であり、生活や遊びの中で、全身を使い様々な活動を経験することで、より運動機能の発達を促し、数多くの運動技能を身につけていく時期でもある。

様々な活動を経験する中で、4歳児は活動への興味・関心を広げ、いろいろな事を“やってみよう”という気持ちを持ち、次第に“やってみよう”の気持ち（意欲）から“やってみよう”（態度）へと変わり、活動に意欲的に

なる。

4歳児は、いろいろな活動に意欲的に取り組みながら、自分なりの力を獲得し、5歳児の発達へとつなげていく。

(3) 5歳児の発達の特性

高橋保子氏によると、5歳になると「全身の運動機能が育ち、敏捷性・瞬発力・防御力などが備わり、機敏な動きを楽しめるようになる。手先も器用になり、細かい動きも楽しめる。興味を持つと集中して取り組むことができ、できた時には素直に達成感を味わうこともできる」と述べている。

上記のように5歳児になると、集中力も高まり、活動時間が4歳児に比べ長くなる。また、4歳児で獲得した、様々な運動機能を使って、いろいろな運動遊びを楽しむことができるようになり、“試してみよう”“やってみよう”“面白そうだな”などの興味・関心にも広がりが見られ、遊びの中で目的意識を持って取り組むようになる。そして、“できた”の達成感を十分に味わうことで、自信となり、次への活動意欲へとつながっていく。

また、5歳児は、仲間意識も高まる時期でもあり、共通の目標や見通しをもって自分の役割を果たしたり、ルールを決めて遊びをより楽しくすることもできる。お互いに認め合い、様々な活動に取り組む楽しさを味わいながら、自分なりの力を獲得していく。

2 幼児期の運動遊びについて

(1) なぜ幼児期に運動が必要なのか

幼稚園教育要領の中で「幼児期は、身体が著しく発育するとともに、運動機能が急速に発達する時期である」と明記されている。そのことから、幼児期にとっての運動は、身体諸機能の発達を促す上でも重要であることが考えられる。

また、岩崎洋子氏によると「幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくるときであり、年

年齢にふさわしい発育・発達を促し、健康的な生活をするには運動が必要である」と述べている。岩崎氏によると「健康の基礎」とは、日常生活を円滑に行う力、自分の体を保持したりコントロールしたりする力、病気に対する抵抗力などの力と捉え、これらの力をつけるには、ある程度の体力と運動能力が必要となってくると述べている。

子どもの運動技能の獲得過程は、近藤充夫氏によると、図1のように示している。

子どもの運動技能は、0~2歳児の移動中心の技能の獲得から始まり、2~6歳の時期には、日常生活に必要な多種多様な動きの基盤となる基本運動技能を獲得していく。その後も、生活の中で様々な活動を繰り返し行いながら、動きを習熟していき、様々な運動技能の獲得へと結びつけていくとされている。

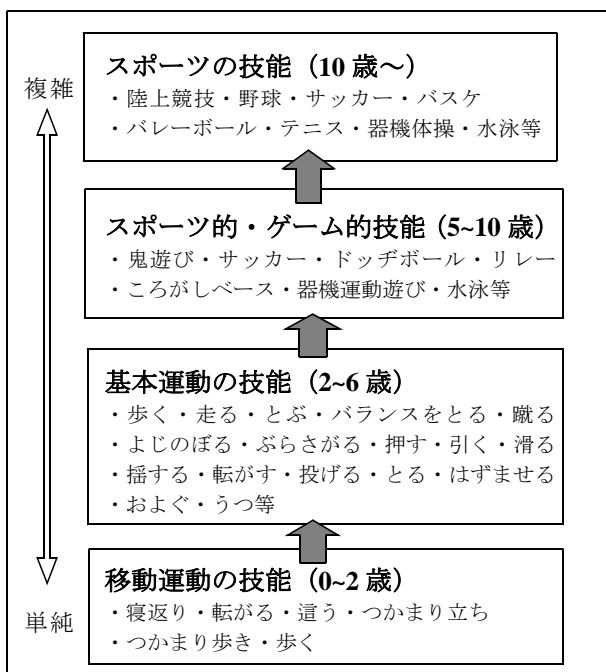


図1 運動技能の獲得過程

「基本運動の技能」は、図1で挙げられているものを含め、一般的に84種類の動きが報告されており、幼児期には座る・寝る・走るの日常生活の動作から、投げる・打つ・蹴るといったスポーツ場面でも使われる動作、つかむ・折る・かくといった手指の動作までを

日々の活動の中で経験し、運動技能として獲得していく。

幼児期に獲得した基本運動技能が、日常生活に必要な動きの基となり、生涯にわたる健康の基礎づくりへとつながると考えられる。

これらのことから、幼児期に運動を十分に行うことは、様々な基本運動の技能の獲得へとつながり、その中で心身の発達を促しながら体力と運動能力を高め、生涯にわたる健康の基礎をつくる上でも必要である。

(2) 幼児期の運動遊びの捉え

① 遊びとは

岩崎洋子氏によると、一般的に遊びの成立条件として、以下のことをあげている。

- A 外部から強制感や拘束感がないこと
- B 活動が楽しいこと
- C 活動自体が目的であること

つまり、子どもたちが活動する中で、自発的に取り組み、子どもたち自身が楽しむことができるものを「遊び」と捉えることができる。

② 運動遊びとは

岩崎洋子氏によると「遊びの中で活発にからだを使う遊びを運動遊び」とし、「走る・跳ぶ・投げる・転がる・泳ぐなど全身運動をともなう遊びや運動遊具、固定遊具を使う遊びなどに用いられることが多い」と述べている。

運動遊びとは、鉄棒や縄跳び、跳び箱などの技能的なものだけではなく、鬼遊びやだるまさんが転んだ、かごめかごめなどのゲーム的な集団遊びもその要素を含むと考えられる。

③ 幼児期の運動遊び

森上史朗氏らによると、幼児の遊びと運動について「幼児は体を動かすことが大好きである。幼児は本来、自分の体を丈夫に育て、体力や運動能力を高めることを自らの運動的な活動を通して行っている。運動的な活動は、大人にやらされて行うものではなく、自ら積極的に環境にかかわる遊びの中で行われている」と述べている。

前述のことから、幼児期の運動遊びは、幼児自ら取り組む遊びの中で、展開するものであることがわかり、幼児の運動を促すには、幼児が主体性を発揮し、遊びが活発になるように援助をしていくことが大切である。

その際に、教師が技能を身に付けさせることをねらって活動を展開するのではなく幼児自身が“楽しい”“やってみたい”と思い、活動に取り組めるようにすることが大事である。幼児の主体的な運動活動を通して、幼児が自ら様々な技能を獲得していくことが幼児本来の姿である。

(3) 運動遊びの教育的意義

幼児期に様々な運動遊びを展開する中で、以下のような教育的意義が挙げられると考えられる。

① 心身の発達を促す

平成19年度より保育園や幼稚園で運動遊び事業を導入し、展開している兵庫県豊岡市教育委員会より出されている『運動遊び通信』の中で「身体を動かす遊びや運動は丈夫な「身体」をつくるためだけではなく、実は「脳」や「こころ」の発達にも役立っている」とし、「運動」と「脳」と「こころ」の関係を次のように説明している。

脳の前頭葉の中には運動をつかさどっている「運動野」という部分と、感情をコントロールする「前頭前野」という部分がある。運動野は身体を動かすことによって活性化し、このとき前頭葉全体の血流量が増加することによって、前頭前野も同時に活性化する。つまり、全身運動をすることによって、前頭前野が活性化し、感情をコントロールする力（＝注意力や抑制力や判断力）が、よりうまく働くようになる。

身体を動かす活動を行うことにより、脳を活性化し、心身の発達を促すことができる。

感情のコントロールができるようになることで安定した心を持ち、いろいろな活動に意

欲的に取り組めるようになると考えられる。

② 生活リズムへとつながる

岩崎洋子氏の著書の中でも「栄養、睡眠、運動、生活リズムの4つはそれぞれに連動し、十分に運動すると、お腹が空き、眠くなる。また、十分食べると眠くなり、眠ると活力が生まれ、運動を楽しむことができる」ことを挙げている。

幼稚園で様々な運動遊びを経験し、十分に体を動かして遊びを楽しむことにより、食欲が増し、睡眠時間も多くなり、生活リズムを整えることにつながってくる。

③ 運動好きな子を育てる

運動の好き嫌いは、幼児期から小学校低学年頃にはっきりしてくることが多いと言われている。（豊岡市教育委員会『運動遊び通信』より）

幼児期に遊びを通して、体を動かすことが楽しいと思える経験や、様々な運動技能を獲得していく中で「出来た」「出来る」という経験を積み重ねていくことで、運動好きな子を育てることができる。

3 幼児が自ら体を動かして遊ぶようになるための援助の工夫

“幼児が自ら遊ぶようになる”とは、幼児が遊びの主体となり、いろいろな活動に興味・関心をもって自発的にかかわって遊ぶようになることである。

そのためには、幼稚園教育要領の「幼稚園教育の基本」の中で、「幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること」と明記されている。

教師は、日々、子どもたちの姿を捉え、信頼関係を築くと共に、一人一人の幼児が自己を発揮できるような指導計画を立て、環境や援助を工夫していく必要がある。

(1) 自ら体を動かして遊ぶようになるための援助の工夫

幼児が自ら体を動かして遊ぶようになるには次のような援助の工夫が考えられる。

① 安定した信頼関係づくり

日々の生活や遊びの中で、幼児の思いに寄り添い、幼児が安心して活動できるように見守り、時には、援助したり励ましたりしながら、幼児との安定した信頼関係を築いていく。幼児は、教師に見守られているという安心感の中で、自己を発揮し、自ら周囲にかかわって遊ぶようになる。また、安定した信頼関係の中で、子どもたちの“やってみたい”の気持ちが育ち、いろいろな運動遊びに取り組むようになるであろう。(図2)



図2 援助①<安定した信頼関係づくり>

② 活動の流れの工夫

幼児の発達過程を踏まえ、日々の子どもたちの遊びの様子を見ながら、活動の内容や流れを考える。

子どもたちが興味・関心を持てるような活動内容やそれぞれの発達に合った活動内容でなければ、子どもたちの遊びは続かない。

子どもたちが、今、どのような発達過程にあり、どのような遊びに興味があるかを考え、活動計画を立てることが大切である。また、活動計画を立てることで、子どもたちに様々な運動遊びを展開することができ、多様な経験へとつなげていくことができるであろう。(図3)



図3 援助②<活動の流れの工夫>

③ 環境の工夫

環境には物的環境と人的環境がある。

ア 物的環境の工夫

体を動かす遊びには、固定遊具や運動用具（跳び箱・縄跳び・フラフープ・平均台など）を利用する遊びと、遊具や用具を使用しない遊び（かけっこ・鬼遊び・かくれんぼなど）がある。

幼児の発達過程や遊びの様子を見ながら、遊具や用具の配置や出し入れを考える必要がある。

また、子どもたちが伸び伸びと体を動かして遊べるように、子どもたちの遊びの動き（動線）を見とり、遊びの場の設定を考えることも、子どもたちの主体的な遊びを促す上でも大切である。

子どもたちの“やってみたい”の気持ちを受け止め、環境構成を考えることで子どもたちの意欲を高めていく。

イ 人的環境の役割

幼稚園における人的環境として、教師と周囲の子どもたち（友だち）があげられる。

幼稚園教育要領の中でも「幼児は、自分の存在を教師や友だちに肯定的に受け入れられていると感じられるとき、生き生きと行動し、自分の本心や自分らしさを素直に表現するようになり、その結果、意欲的な態度や活発な体の動きを身に付けていく」と明記している。

人的環境としての教師の役割として、幼児

の思いや活動に取り組んでいる姿を温かい気持ちで受け止め、励ましたり、共感したりすることで、活動意欲を高めていく。また、時には教師自身もモデルとなって、体を動かすことを楽しんだり、頑張っている子を応援することで、子どもたちも楽しいと感じたり、“面白そう”“やってみたいな”と興味を示したり、友だちを応援しようとする気持ちをもつことにつながっていくであろう。(図4)

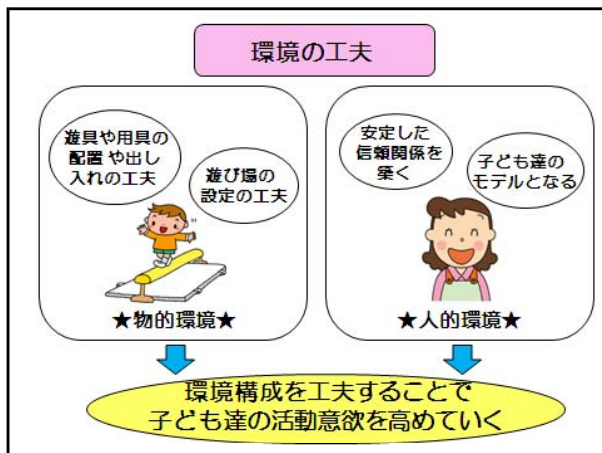


図4 援助③<環境の工夫>

④ 家庭との連携を図る

幼児の遊びを考える上で、家庭での様子を把握すると共に、園での様子を家庭に伝えることで、幼児の活動が充実してくると考えられる。幼児は幼稚園で経験したことを家庭で繰り返し楽しんだり、また、逆に家庭で経験したことを幼稚園で友だちと楽しんだり、様々な経験を繰り返し行いながら遊びを深めていき、次への“やってみたい”へとつながる。(図5)

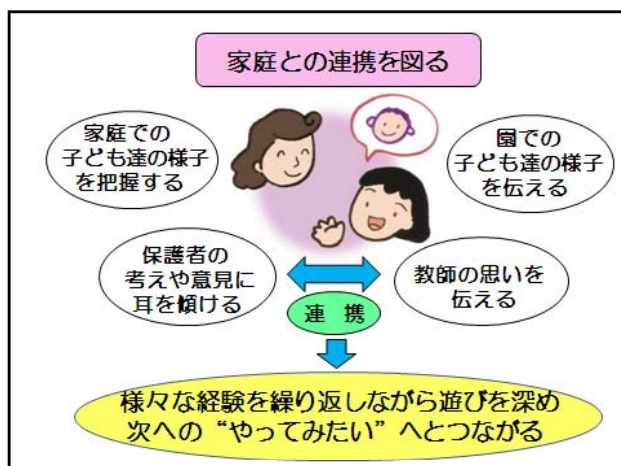


図5 援助④<家庭との連携を図る>

ア 幼児の運動と家庭とのかかわり

幼稚園教育要領の中で、幼稚園の役割として「幼稚園が家庭と協力して教育を進めることにより、保護者が家庭教育とは異なる視点から幼児へのかかわりを幼稚園において見ることができ、視野を広げるようになるなど保護者の変容も期待できる」と、明記している。

幼児の運動能力の低下の背景の一つに、家庭での体を動かして遊ぶ遊びの不足があると考えられる。

家庭と連携を行うことで、保護者の運動に対する意識や関心が高まり、子どもたちの運動する機会が増えることにつながっていく。

イ 家庭との連携方法

(ア) 運動に関するアンケートの実施(11月上旬)

【対象】 検証保育を行う年中児1クラス

【ねらい】

- ・ 保護者にアンケートを行い、家庭での子どもの様子と保護者の運動に関する考えを把握し、家庭にもその結果を知らせ、今後の連携に活用していく。

【アンケート結果】 回収率 83%

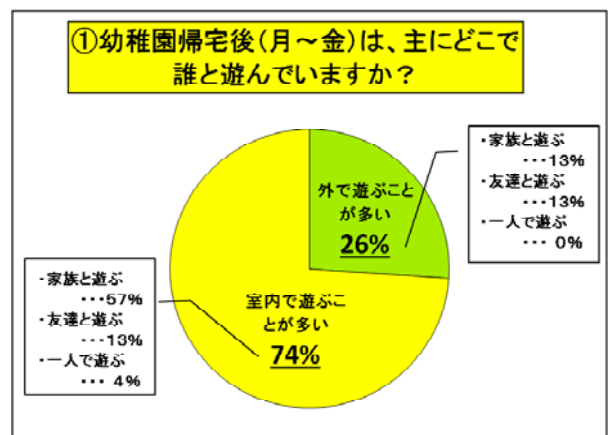


図6 アンケート①の結果

<アンケート①の考察>

- ・ 平日は、約7割の子が室内遊びをしており、戸外で遊んでいる子は約3割弱となっている。年中児ということで、平日も家庭に家族がいる子が多く、遊んでいる相手も家族と答えている子が多かった。また、戸外で遊んでいると答えた子は、兄弟関係を調べてみると、ど

の子も年上の兄弟がおり、兄弟と一緒に戸外で遊んだり、または兄弟から影響を受けて、戸外で遊ぶ傾向にあると考えられる。(図6)

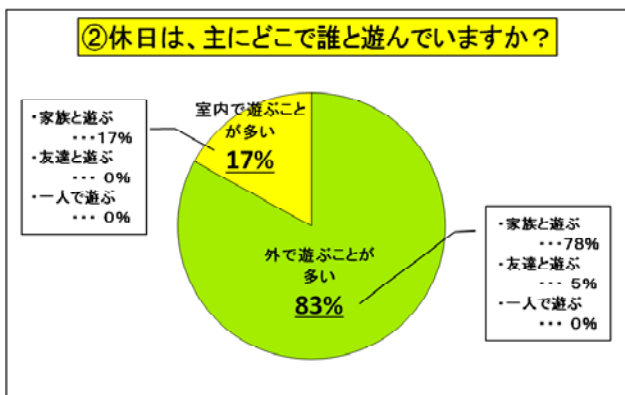


図7 アンケート②の結果

〈アンケート②の考察〉

- 平日は、「小さい子がいるから」「子どもだけで外へ行かせるのが不安」などの理由から、室内遊びに偏りがちであったが、休日には、約8割の家庭が家族で積極的に戸外で遊んでいる。そのことから、保護者の外遊びへの意識の高さがうかがえる。

しかし、休日も室内で遊んでいると答えた約2割の子は、平日の様子も調べてみると、どの子ども平日も室内で過ごしていた。この約2割の子への配慮も今後考えていく必要がある。(図7)

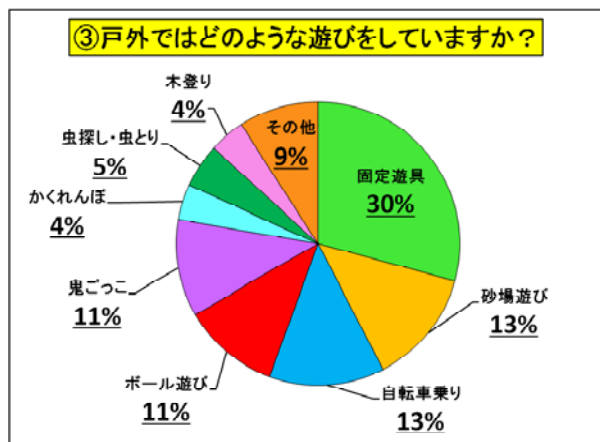


図8 アンケート③の結果

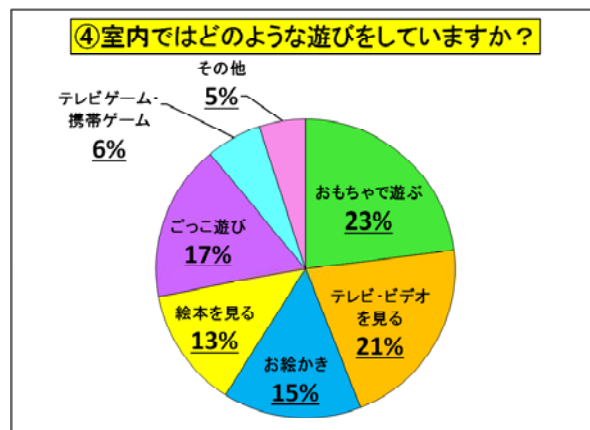


図9 アンケート④の結果

〈アンケート③④の考察〉

- 戸外での遊びは、体を動かす活動が多く行われていると思われる(図8)が、室内遊びにおいては、体をあまり動かさない静的な遊び(テレビ・ビデオを見る、お絵かき、絵本を見る、テレビゲーム・携帯ゲーム)が割合を占めている。中には、テレビゲームや携帯ゲームを楽しむ子が、6%(人数にすると5人)もおり、ゲームの低年齢化が進んでいることがわかる。(図9)

アンケート①の結果より、平日の幼稚園終了後、主に室内遊びをしている子が多いことから、幼稚園での運動活動が重要になってくる。

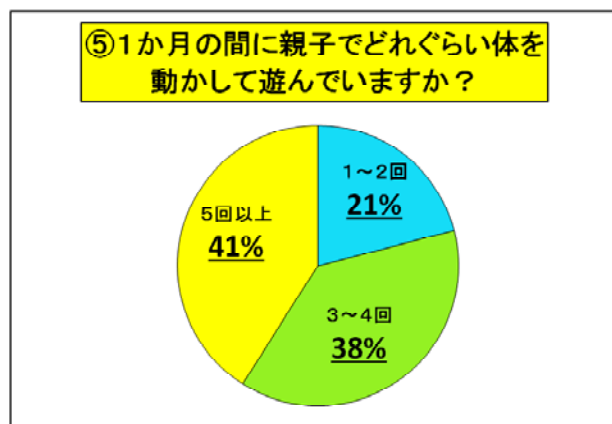


図10 アンケート⑤の結果

〈アンケート⑤の考察〉

- 回答項目に「ほとんどない」も入れてあったが、「ほとんどない」と答えた方はいなかった。体を動かしている回数も「5回以上」が約4割を占め、次いで「3~4回」が多いこ

とから、ほとんどの家庭で体を動かすことを意識していることがわかる。(図 10)

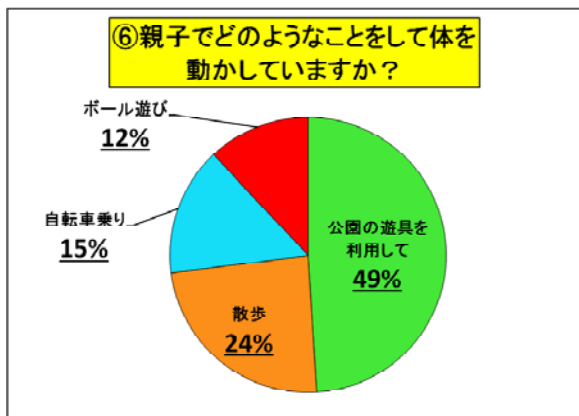


図11 アンケート⑥の結果

〈アンケート⑥の考察〉

- 本園の地域周辺は公園がいくつかあり、家族連れで遊んでいる姿をよく見かける。アンケート結果でも「公園の遊具を利用して」が約半数を占め、次いで「散歩」をしているとの回答が多かった。(図 11)

その他の回答に「児童センターやスポーツ施設などを利用して」の項目も取り上げたが、回答は0であった。そのことから、積極的に戸外での遊びを保護者が意識していることがわかる。

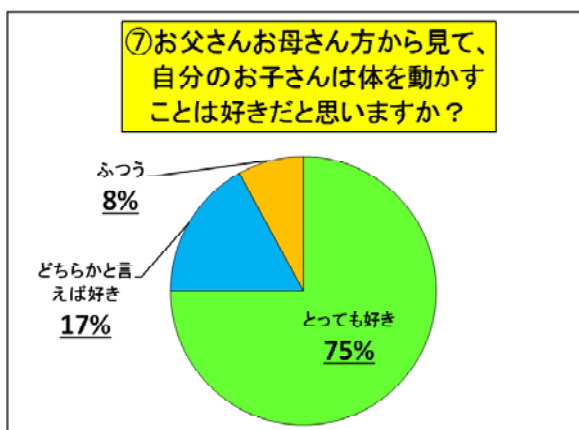


図12 アンケート⑦の結果

〈アンケート⑦の考察〉

- 回答項目に「どちらかと言えば嫌い」と「とても嫌い(苦手)」も入れてあったが、両項目とも回答0で、ほとんどの子が体を動かすことが「好き」という回答を出していた。そのことから、今の時点ではどの子も運動を楽

しむことができる時期と思われ、いろいろな運動活動を経験することで、更に運動を好きにすることができるであろう考える。(図 12)

⑧最近、子どもたちの体力低下が問題視されていますが、その原因についてどう思いますか？

[保護者の意見]

- テレビやビデオ、ゲーム、おもちゃなどが豊富なため、室内で遊ぶことが多く、そのため、外に出て体を動かす機会が減ったことが原因では。
- 安心して遊べる場の減少と、不審者による不安や車の事故が心配で、外で遊ばせる機会が少なくなった。
- 近所付き合いが希薄になり、近所の子も同士で遊ばなくなった。
- 車での移動が多くなり、歩く機会が減っている。
- 親自身も運動をする人が少ないので、子どももあまり運動をせず体力が低下しているのではないか。
- 習いごとをする子が増えたため。

⑨体を動かすことに関して、家庭で気をつけていることや実際に行っていることとかがありますか？

[保護者の意見]

- 休みの日は、公園などで思いっきり体を動かして遊ぶようにしている。
- 子どもが興味を持っている運動に親も一緒になって楽しみながら体を動かしている。
- たまに室内で、手押し車や逆立ち、ブリッジをさせている。
- 室内でもフラフープやけんけんぱなどをして遊んでいる。
- 室内で遊ぶことが多かったと思う日は、夕方、少しの時間外に連れ出すようにしている。
- 子どもと一緒に目標をもって運動をし、目標達成できた時には褒めるように心がけている。
- 定期的に散歩に行く。

<アンケート⑧⑨の考察>

- ・ 保護者の意見より、保護者自身、子どもたちの体力低下を問題視し懸念していることがわかる。また、各家庭においても、体を動かす工夫をしている意見が多く見られ、保護者の運動への意識の高さがわかった。

しかし、中には家庭事情によって、思うように運動をさせることができないと答えている家庭もあった。

このことから、今後、家庭と連携を図り、保護者と考えを出し合いながら、どの家庭でも体を動かす活動が行えるように工夫していく必要があると思われる。

(4) 家庭での運動遊びを充実できるようにするための連携方法

○ クラスだよりの発行

クラスだよりにて、体を動かすことの大切さを知らせることで、保護者の運動に対する関心を高める。また、家庭でも取り組める運動遊びや各家庭で取り組んでいる運動遊びなどを紹介することで、親子で進んで運動遊びを楽しめるようにしていく。

○ 園での取り組み

園では、子どもたちが体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるような活動を展開し、その活動内容と子どもたちの様子を家庭へと知らせる。

また、親子で体を動かす活動を園で取り入れ、実際に親子で体を動かす楽しさを体験することで、家庭でも進んで運動できるようにする。

○ 個別の指導方法

あまり運動をしたがらない子、戸外で体を動かすことを嫌がる子、すぐに運動遊びに飽きてしまう子など、進んで運動しようとしないう子への指導方法として、個別に家庭と連携をとり、その子にあった援助の工夫を考え、無理なく運動遊びを楽しめるようにしていく。

4 運動遊びに関する年間指導計画

4歳児・5歳児の発達の特性を踏まえ、理論研究や文献を基にそれぞれの発達に合わせた運動遊びに関する年間指導計画を作成した。

(1) 運動遊びに関する年間指導計画（4歳児）

	I期（4・5月）	II期（6・7月）	III期（8・9・10月）
幼児の姿	・教師の側にいることで安定を見出そうとしている反面、友だちや新しい生活に期待を寄せている。	・クラスの友だちにも慣れ、自分の好きな遊びを見つけようとする。 ・遊具の取り合いや意見が合わなかったりしてトラブルが起きたりする。	・戸外での遊びや体を動かして遊ぶことを好み、友だちや先生と一緒に楽しもうとする。 ・簡単なルールのある遊びに喜んで参加するようになる。
発達過程	・新しい生活が始まり、先生や友だちに親しみの気持ちをもつ時期	・周囲の人や物に興味を持ち関わって遊ぼうとする時期	・いろいろな遊びを発見し、挑戦しようとする時期
ねらい	◎園生活に慣れ、先生や友だちに親しみをもち、一緒に遊ぶことを楽しむ。	◎好きな遊びを見つけ、存分に遊び、楽しさを味わう。	◎友だちと一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ◎簡単なルールのある遊びを楽しむ。
内容	○先生や友だちと一緒に動く楽しさを味わう。 ○固定遊具の使い方がわかり、安全に気をつけて遊ぶ。	○全身を使って遊ぶ遊びを先生や友達と一緒に楽しむ。 ○自分の好きな遊びを見つけ先生や友だちとかがわって遊ぶ。	○いろいろな遊具や用具を使って、戸外で友だちと一緒に体を動かす楽しさを味わう。 ○簡単なルールを守って先生や友達と一緒に遊ぶ。
活動例（幼稚園・家庭）	個の遊び *固定遊具（すべり台・ブランコ・ジャングルジム） *スケーター *ポックリ *固定遊具（鉄棒・うんてい） *けんば		
	集団遊び 教師や友だちと触れ合って遊ぶ *追いかけっこ *かごめかごめ *あぶくたった *はないちもんめ みんなと一緒に遊ぶ *おおかみさん今何時？ *だるまさんがころんだ *巧技台遊び *プール遊び 運動会ごっこを楽しむ *玉入れ *かけっこ *リズムダンス		
	親子で遊ぶ 公園で遊ぶ（遊具遊び・ボール遊び・散歩など） 室内で遊ぶ（触れ合い遊び） 親子で触れ合い遊び *親子体操 *親子リズム 親子レクリエーション *体操 *障害物競争 *玉入れ *ジャンケンゲーム *パン食い競争 など 家族で海水浴		
☆教師の援助 ◇環境構成	☆一人一人の思いをくみ取りながら信頼関係を築き、安定して遊べるようにする。 ☆教師も一緒に遊びながら、遊び方や遊具の使い方を知らせる。 ◇園ならではの遊具や用具を準備し、新しいことにも興味をもち参加できるようにする。	☆教師が媒介になって友達との接し方や遊びへの参加の仕方がわかるようにする。 ◇やりたいことがすぐにできる環境作り、と繰り返し遊びを楽しめる時間を確保する。 ☆リズム遊びやダンスをみんなでも楽しむことで、体を動かす楽しさを味わえるようにする。	☆ルールがはっきりわかるもの、繰り返し楽しんで遊べるものなどの活動を、幼児の経験や実態に合わせて選んでいく。 ☆教師も一員として遊びに参加し、遊びを盛り上げたり、参加しながらない幼児を誘ったりして、どの子にも経験できるように配慮する。 ◇幼児で誘い合い、刺激し合えるような場を多く設ける。

	IV期 (11・12月)	V期 (1・2・3月)
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びに興味を持ち、挑戦したり頑張ろうとする気持ちを持つようになる。 全身運動が活発になり、繰り返し運動に取り組む姿が見られる。 年長児の遊びに関心を持ち、自分達も真似たりして遊ぼうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに必要な技能や遊び方の理解ができるようになり、教師に頼らなくても遊びが進められるようになってくる。 友だちと一緒に遊びを進めながら、楽しくするために考えたり工夫したりする。また、持続して遊べるようになる。 年長組になることへの憧れや期待が感じられる。
発達過程	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな遊びに挑戦しながら、遊びや友だちに広がりが出てくる時期 	<ul style="list-style-type: none"> 園生活の仕方がほとんどわかり、幼稚園が楽しくなる時期
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ◎友だちとイメージを出し合いながら、遊びを進めていく楽しさを味わう。 ◎自己を発揮しながら友だちと遊ぶ楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の考えを伝えたり、友だちの考えを受け入れたりして、協力しながら遊びを進めていく。 ◎自分なりの目的をもち、いろいろと遊びを工夫していくことを楽しむ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○運動遊びに進んで取り組み、友だちと一緒に楽しむ。 ○友だちと同じ目的に向かって考えを出したり、表現したりして一緒に遊びを進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○戸外で全身を思い切り動かして遊び、みんなと一緒に遊ぶことの楽しさを味わう。 ○自分なりの目的に向かって力を出し、頑張ることの喜びを味わう。 ○いろいろな遊びに興味をもち試したり、工夫したり、挑戦したりして楽しむ。
活動例 (幼稚園・家庭)	<p>個の遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> *固定遊具 (すべり台・ブランコ・ジャングルジム・鉄棒・うんてい) *フープ *縄跳び <p>集団遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなで挑戦する <ul style="list-style-type: none"> *縄遊び *マット遊び *跳び箱遊び *平均台遊び 忍者ごっこを楽しむ <ul style="list-style-type: none"> *忍者カードの内容を忍術に見立て、忍者になりきって挑戦する。 *ダンス♪なんじゃもんじゃ忍者 クラスみんなで楽しむ <ul style="list-style-type: none"> *円形ドッチボール *サッカー *手つなぎ鬼 <p>親子で遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園で遊ぶ (遊具遊び・ボール遊び・散歩など) 親子でマラソン・ウォーキング <ul style="list-style-type: none"> *地域活動への参加 (てだこウォークなど) 室内で遊ぶ (触れ合い遊び) 運動チャレンジ大会 <ul style="list-style-type: none"> *幼稚園で日頃子どもたちが取り組んでいる 	<p>忍者カード (運動遊びチャレンジカード) に挑戦!!</p> <ul style="list-style-type: none"> *固定遊具 (ブランコ・鉄棒・滑り台・ジャングルジム) *ポックリ *マット (前回り) *けんぱ *大波小波 <p>—————></p>
☆教師の援助 ◇環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分からやってみようとして取り組んでいる姿を認め、共に喜んだり、励ましながら意欲を高めていく。 ☆技能的な援助が必要な子には、手を添えるなど個々に応じた援助をする。 ◇いろいろな運動遊びに取り組めるように、子どもたちの遊びの様子を見ながら用具を準備する。 ◇年長組と同じ場で遊ぶなど、年長児の遊び方が刺激になるように接点を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆同じ目的や興味をもって友だちと一緒に取り組み充実感が味わえるようにする。 ☆面白そうな遊びや活動への取り組みをみんなに知らせながら、互いに認め合うクラスの雰囲気を作ったり、互いの刺激になるようにしていく。 ◇それぞれが取り組んでいる遊びの中で、一人一人が自分の力を十分に出しきって遊べるよう、場や時間の取り方、用具や遊具などの直接的な援助などを配慮していく。 ☆一人一人の行動を認め、励ましながら自信を持たせていくことで年長組への期待を持たせるように配慮する。

(2) 運動遊びに関する年間指導計画 (5歳児)

	I期 (4・5月)	II期 (6・7月)	III期 (8・9・10月)
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団生活の経験のある子や初めての子など個人差が著しい。 ・ 進級児は年長になった喜びと自覚を持ち、積極的に園生活を行う姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園生活の流れや身近な環境がわかり、自分の好きな遊びをしたり、気の合った友達と遊ぶようになる。 ・ 自己主張が強くなり、個々の思いの違いからトラブルが多く見られるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全身的な運動が盛んになり、試したり挑戦したりしながら、いろいろな運動遊びに進んで取り組む姿が見られる。 ・ 自分なりの目的を持って、頑張ろうとする気持ちが高まってくる。
発達過程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びや教師との触れ合いを通して園生活を楽しみ安定していく時期 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気の合う友だちと関わりながら遊びを広げていく時期 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちとのつながりが深まり、自分の力を発揮していく時期
ねらい	◎園生活に慣れ、先生や友だちと一緒に遊びを楽しみながら安心感を持つ。	◎友だちとつながりを深め、思いを伝え合いながら遊びを進める。 ◎戸外で体を十分に動かして遊び、充実感を味わう。	◎戸外で十分に体を動かし、友だちと挑戦したり、競い合ったりして遊ぶ楽しさを味わう。 ◎共通の目的に向かって、皆で取り組む楽しさを味わう。
内容	○自分から遊びを見つけ、友だちと一緒に遊ぶ。 ○固定遊具の使い方がわかり、安全に遊ぶ。 ○集団遊びを楽しむ。	○全身を使って思い切り遊ぶ。 ○いろいろな遊具や用具の望ましい使い方を知る。 ○簡単なルールのある遊びを友だちと一緒に楽しむ。 ○プール遊びを楽しみ、水に慣れ親しむ。	○友だちと運動したり競争したり思い切り体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ○挑戦することに興味を持ち、自分なりの課題を持って取り組む。 ○ルールを確かめたり、考えたりしながら遊びを進める。
活動例 (幼稚園・家庭)	<p>個の遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> *固定遊具 (すべり台・ブランコ・ジャングルジム) *スケーター *ポックリ *フープ 	<p>*固定遊具 (鉄棒・うんてい・登り棒)</p>	<p>*竹馬・やっこ・縄跳び</p>
幼稚園	<p>教師や友だちと触れ合って遊</p> <ul style="list-style-type: none"> *かごめかごめ *ハンカチ落とし *なべなべ *はないちもんめ 	<p>大勢の友だちと遊</p> <ul style="list-style-type: none"> *おおかみとこやぎ *ドンじゃんけん *フルーツバスケット *プール遊び 	<p>運動会ごっこを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> *かけっこ *リレー *玉入れ *組体操 *リズムダンス *ラジオ体操
家庭	<p>公園で遊ぶ (遊具遊び・ボール遊び・自転車など)</p> <p>親子で触れ合い遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> *親子ゲーム *親子リズム 	<p>親子レクリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> *体操 *障害物競争 *ジャンケンゲーム 	<p>室内で遊ぶ (触れ合い遊び)</p> <p>家族で海水浴</p> <ul style="list-style-type: none"> *玉入れ *パン食い競争 など
☆教師の援助 ◇環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ☆個々の幼児と触れ合い安定感が持てるようにする。 ☆教師も一緒に遊びにわり、遊具の安全な遊び方を知らせていく。 ☆集団遊びを取り入れ、仲間とのつながりを感じられるようにする。 ◇やりたいことがすぐに見える十分な物と、繰り返してできる自由の時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆教師との触れ合いや友だちとの関わり合いを楽しめるよう親しみのある遊びや簡単なルールを投げかけ、楽しめる場を提供していく。 ◇遊びが充実していくように、また繰り返し遊びが楽しめるように場や時間を確保する。 ☆プール遊びにおいては、個人差があるので一人一人に応じた援助を心がけ、安全に遊べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇運動遊びが十分にできるように場や時間を確保したり、用具を整えておく。 ☆自分なりに目標をもって取り組んでいる姿を受け止め、具体的に認め、自信につなげていく。 ☆子ども自身で活動を進めている姿を応援したり見守ったりしながら年長児としての自信を育て意欲を高めていく。 ☆教師も一緒に遊びながら、遊び方やルールを知らせていく。

	IV期 (11・12月)	V期 (1・2・3月)
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外で全身を使った遊びを好み、いろいろな運動遊びに挑戦する姿が見られる。 ・ ルールのある遊びの楽しさがわかるようになり、友だちと一緒に取り組む姿が見られるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分達でめあてを持って取り組み、最後までやり遂げようとする姿が見られる。 ・ 友だちとのつながりが深まり、遊びの見通しをもって自分達で遊びを進めていこうとする。 ・ 一年生になるという喜びと自覚が生まれ、自信をもって積極的に行動するようになる。
発達過程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちと一緒に遊びを進めたり、課題を乗り越える楽しさを知る時期 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分に自信を持ち、自主的に行動していく時期
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分なりの力を発揮しながら、戸外で体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ◎友だちと誘い合って、ルールのある遊びで、全身を使って楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の目的に向かって取り組み、やり遂げた満足感を味わう。 ◎友だちと協力し、一緒に遊びを進めていく達成感や充実感を味わう。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の力を発揮しながら、運動遊びを楽しむ、充実感を味わう。 ○友だち同士で遊びを広げ、意欲的に取り組む。 ○ルールを守ったり、自分達でルールを作ったりして、心身を弾ませて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人が自分なりの目標を持ち、自分の力を十分に発揮しながら最後まで取り組む。 ○気の合う友だちでグループを作ったり、クラスみんなでルールのある遊びを楽しむ、充実感を味わう。 ○自分達で協力し合いながら遊びを進めて楽しむ。
活動例 (幼稚園・家庭)	個の遊び	<ul style="list-style-type: none"> *固定遊具 (すべり台・ブランコ・ジャングルジム・鉄棒・うんてい・登り棒) → 運動遊びチャレンジカードに挑戦!! → *固定遊具 (鉄棒・登り棒・うんてい) *竹馬 *やっこ *フープ回し *縄跳び (前跳び・後ろ跳び・片足跳び・あや跳び・ゆうびんやさん) *跳び箱
	集団遊び	<ul style="list-style-type: none"> ルールのある遊びを楽しむ → *円形ドッジボール *リレー *サッカー *ひょうたん鬼 *色鬼 *イス取りゲーム 集団での遊びを楽しむ → *ドッジボール *サッカー *鬼遊び 自分達で遊びやルールを作って楽しむ
	親子で遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 公園で遊ぶ (遊具遊び・ボール遊び・自転車など) 室内で遊ぶ (触れ合い遊び) → 親子でマラソン・ウォーキング *地域活動への参加 (てだこウォークなど) 運動チャレンジ大会 *子どもたちの運動遊びにチャレンジする姿を見たり、一緒に運動遊びに挑戦したりす
☆教師の援助 ◇環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ☆挑戦意欲を大切にし、できるだけ自分の力でできたという達成感を味わえるようにする。 ☆自分から進んで活動に関わらない子は誘ったり、教師も一緒に遊びながら意欲を高め、達成感を味わえるようにする。 ◇自分達でルールを考えて遊びを進めたり必要な物を準備したりしている姿を見守り、その遊びがじっくり楽しめるように、場や時間を確保していく。 ☆年中児との遊びでは安全面に配慮し、一緒に楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆繰り返し努力している姿や工夫している姿を十分に認めていくとともに、その気持ちをわかってくれる友だちや教師のことを知らせ、友だちから認められるような機会をつくる。 ☆協力し合って遊びを進めている様子を見守り、子ども達にまかせながら、必要に応じて関わっていく。 ◇いろいろな動きに挑戦する姿を認め、遊びの状況に合わせてルールを変えたり、運動量に合わせて十分な場を確保したりする。 ◇取り組みたい遊びが十分に楽しめるように子どもと一緒に環境を整えていく。

Ⅶ 保育実践

1 検証保育の全体計画

検証保育の実践にあたり、下記のような全体計画を立てた（全9回）。対象児：4歳児（年中クラス）

実践No.	月日	主題	題材名	ねらい	活動内容	仮設
1	12 / 8 (火)	みんなで体を動かして遊ぼう！	縄で遊ぼう！	・縄を使っているいろいろな遊びを楽しみ、縄遊びに興味・関心を持つ。	・縄を使って、綱渡り、グーパー跳び、ジャンケン遊び等を行い、縄遊びを楽しむ。	1 2
2	12 / 10 (木)		マットで遊ぼう！	・マットを使っているいろいろな遊びを楽しみ、マット遊びに興味・関心を持つ。	・マットを使って、ゆらゆらたまごや焼き芋ゴロゴロ、色鬼等を行い、マット遊びを楽しむ。	1 2
3	12 / 17 (木)		跳び箱で遊ぼう！	・跳び箱を使っているいろいろな遊びを楽しみ、跳び箱遊びに興味・関心を持つ。	・跳び箱を使って、上り下りやいろいろなジャンプをしたり、跳び箱の枠を使って、ごっこ遊びを行う等、跳び箱遊びを楽しむ。	1 2
4	12 / 22 (火)		巧技台で遊ぼう！	・巧技台を使っているいろいろな遊びを楽しみ、巧技台遊びに興味・関心を持つ。	・巧技台を使って、どんじゃんけんをしたり、一本橋・二本橋渡りや斜面登りなどに挑戦し、巧技台遊びを楽しむ。	1 2
5	1 / 12 (火)	忍者を目指しているいろいろな運動遊びに挑戦しよう！	忍者カードに挑戦①	・忍者のイメージを持ち、忍者を目指しながら運動遊びに挑戦する楽しさを味わう。	・忍者カード（4歳児の運動能力と子どもの実態に合わせた内容の運動遊びチャレンジカード）を子ども達に紹介し、できそうなものから挑戦する。	1 2
6	1 / 14 (木)		忍者カードに挑戦②	・できた喜びを味わいながら、運動遊びに挑戦する楽しさを味わう。	・忍者カードの中の運動遊びを一つひとつクリアを目指して、みんなで応援し合いながら運動遊びに挑戦する。	2
7	1 / 18 (月)		みんなでチャレンジ！	・みんなで、忍者になっているいろいろな運動遊びに挑戦する楽しさを味わう。	・忍者の衣装を着けて、忍者ごっこを楽しみながら、忍者カードでまだクリアしていない運動遊びに挑戦する。	1 2
8	1 / 19 (火) 本時		みんなで忍者修行の旅に出よう！	・先生や友だちと一緒に体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ・いろいろな運動遊びに挑戦する楽しさを味わう。	・先生も子どもたちも忍者になりきり、いろいろな運動遊び（「忍法への術」と見立てて）をみんなで楽しむ。 ・自分なりの遊び方で活動を楽しむ。	1 2
9	2 / 10 (水)	親子で遊ぼう！	親子忍者で楽しもう！	・親子で体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。	・保育参観日に親子で体を動かす遊びを紹介し、実際に親子で運動遊びを楽しむ。 ※当日、十分に楽しめるように、事前にクラスだより等で活動内容を知らせておく。	3

2 検証保育 実践事例 1

(1) 主題名 『みんなで体を動かして遊ぼう！』

(2) 題材名 ○実践No.1【縄で遊ぼう！】 ○実践No.2【マットで遊ぼう！】
○実践No.3【跳び箱で遊ぼう！】 ○実践No.4【巧技台で遊ぼう！】

(3) 題材として取り上げた理由

幼児期は体を動かすことを好み、遊びの中で全身を使って活動する時期であり、それが本来の幼児の姿でもあるとされている。

2年保育の始まりの年である4歳児年中クラスの子どもたちは、入園前に保育園等での保育歴がない子も多く、集団で体を動かす経験や運動遊びの経験をしたことがない子も見られる。クラスの子どもたちの遊びの様子を見てみると、活発な子が多いが、外に出て思い切り体を動かす遊びはあまり続かず、砂場や室内で遊ぶことが多く見られた。

そこで、いろいろな用具を使った運動遊びや鬼遊びの活動を展開し、みんなで体を動かす楽しさを味わうことで、運動遊びの楽しさを知り、運動遊びに対する興味・関心が高まると考え、題材として取り上げた。

(4) 活動の展開

主題のねらい：先生や友だちと一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わい、様々な運動遊びに興味・関心を持つ。

活動の流れ	子どもの姿	☆教師の援助 ◇環境構成
<p>12/8 (火) 実践No.1 【縄で遊ぼう！】 <ねらい> 縄を使っていろいろな遊びを楽しみ、縄遊びに興味・関心を持つ。 <内容> ・長縄の綱渡り ・グーパーどんじゃんけん</p> <p>縄から落ちないように・・・</p>  <p>図13 綱渡りに挑戦中！</p> <p>最初はグー！ じゃんけんポン！</p>  <p>図14 グーパーどんじゃんけん</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動前に子どもたちと運動について話し合うと「運動すると体が強くなる！！」「運動すると元気になる！！」などの言葉が出てきた。先生の話聞いて「早くやってみたい！！」と活動に期待している様子が見られた。 長縄の綱渡りでは、ゆっくり慎重に歩く子（図13）もいれば、「こんなの簡単！！」と言って早足で渡る子、それぞれの楽しみ方が見られた。 長縄を並行に二本並べたものを使って遊ぶ、グーパーじゃんけんでは、以前にケンパを経験していたこともあり、上手にグーパーを進める子が多く見られた。（図14）グーパーを難しそうにしている子がいると「こうするんだよ」と優しく教えてあげている姿も見られた。 全体での遊び後、縄を使って、電車ごっこをしたり、へび跳びや大波小波、一人跳び等、縄を使って思い思いに楽しむ姿も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 運動遊びを始める前に、子どもたちが運動遊びへの関心を持てるように「なぜ運動するのか？」子どもたちと話し合う。 ☆ 今日の活動内容を話し、活動に期待が持てるようにする。 ◇ いろいろな綱渡りが楽しめるように、長縄をへび状と一本線状に置く。全員が綱渡りに挑戦し終えた後は、今度は縄を二本並行に並べ、グーパーで進み出会った子とどんじゃんけんを楽しめるようにする。 ☆ 教師も楽しみながら、見本を見せたり、子どもたちとゲームに参加したり、また「できない」と不安そうにしている子に声をかけ一緒に手を取りながら挑戦できるようにするなど一緒に活動を楽しむ。 ◇ 全体での活動後、縄を使って思い思いに遊べるように縄を多めに用意（短縄・長縄）し、時間も確保する。 ☆ 子どもの思いを受け止めながら、教師も遊びを楽しむ。

活動の流れ	子どもの姿	☆教師の援助 ◇環境構成
<p>12/10 (木) 実践No.2 【マットで遊ぼう!】 <ねらい> マットを使っているいろいろな遊びを楽しみ、マット遊びに興味・関心を持つ。 <内容> ・ゆらゆらたまご (体を丸めて前後にゆらゆら) ・焼き芋ゴロゴロ (体を伸ばしてマットと平行に横に転がる) ・マットを使って色鬼</p> <p>みんなでゆらゆら 楽しいね〜♪</p>  <p>図15 ゆらゆらたまご</p>  <p>図16 焼き芋ゴロゴロに挑戦!</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動はじめに、前回の活動を思い出し、思い思いに楽しかったことを話す姿が見られた。教師の顔を見るなり「今日はどんなことするの?」と活動に意欲を見せる子どもも多く見られた。マットの準備も進んで手伝う子どもも多く、マットを出したとたんにマットの上で遊ぶ姿も見られた。 ゆらゆらたまごは難しいながらも、それぞれに挑戦する姿が見られた。(図15) また、焼き芋ゴロゴロは、転がるのが楽しくて、手足を十分に伸ばさずに転がっていたので、マットから外れる子どもも多く見られたが、コツを教えると上手に転がれるようになってきた。(図16) 友だち同士で応援し合う姿も見られた。 色鬼では、ルールをすぐに理解し、全員が参加してみんなで楽しむことができた。 全体での遊び後、マットを丸めたり、折り曲げたりして、その上でジャンプをしたり、マットの中に入って遊んだり、マットを海に見立てて海ごっこを楽しむなど、思い思いに遊ぶ姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 子どもたちと前回の活動を思い出し期待を持たせながら今日の活動について話をする。 ◇ マットの準備を子どもたちの「一緒にやりたい(手伝いたい)」という思いを受け止め、一緒に準備を行う。 ☆ 初めて行うマット活動なので、子ども達が「できない」と苦手意識を持たないように、少しでもできた時にはおおいに褒め、頑張っている姿を認め励まし、やり方のコツをつかめるように個別に指導を重ねるなど一人一人が楽しく活動できるように援助を工夫する。 ☆ 全体で一斉に遊ぶ鬼遊びを活動の中に取り入れることで、教師や友達と一緒に体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ◇ 全体での活動後に、マットを使って思い思いに十分に遊べるように、時間を確保する。 ☆ 子どもたちが考えた遊びに教師も一緒に参加し「この遊び面白いね」「楽しいね!」と声をかけながら楽しみ、遊びが盛り上がるような雰囲気作りをする。
<p>12/17 (木) 実践No.3 【跳び箱で遊ぼう!】 <ねらい> 跳び箱を使っているいろいろな遊びを楽しみ、跳び箱遊びに興味・関心を持つ。 <内容> ・跳び箱一人上り下り ・ねらい跳び下り ・鬼遊び(オオカミさん今何時?)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 二台の跳び箱(三段の高さ)を使って、それぞれ自分なりの方法で跳び箱の上り下りに挑戦する姿が見られた。ほとんどの子が手を使っていたが、何度も繰り返し挑戦するうちに、手を使わないで上り下りに挑戦する子が出てきた。教師が「すごいね!」と声をかけ、みんなにも紹介すると、「〇〇もできるよ!見ててね!」と言って、他の子どもも挑戦するようになり、遊びに変化が出た。 次のねらい跳び下りでは、フープを三つ並べたことで、難易度がアップし、さらに子どもたちの挑戦意欲が高まった。最初は、「一番目(二番目・三番目)のフープに 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 子どもたちと一緒に用具(跳び箱やマットなど)を準備しながら、活動に期待が持てるようにする。 ☆ 子どもたちの遊びの様子を見ながら活動内容を変えていくことで、遊びが発展できるようにする。また、一人一人の取り組みの様子を捉え面白そうなもの、工夫しているものなどを他児にも紹介していくことで遊びに広がりを持てるようにする。 ◇ 子どもたちと相談しながら用具を配置することで、子ども主体で活動を楽しめるようにする。

活動の流れ	子どもの姿	☆教師の援助 ◇環境構成
<p>あのフープに決めた!</p>  <p>図17 ねらいを決めてジャンプ</p> <p>うさぎ組号もうすぐ出発です!</p>  <p>図18 連結汽車ごっこ</p>	<p>跳ぶよ!」と一つのフープを目指してジャンプをしていたが、そのうちフープを一つずつ順に跳び越え三段跳びをする子も出てきた。(図17)</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の最後に新しい鬼遊びを行うと、すぐにルールを覚え、「おおかみさん今何時?」と元気いっぱい声を出して楽しむ姿が見られた。 全体での遊び後、跳び箱の枠を使って、汽車ごっこやお家ごっこ、お風呂ごっこ、また、一段目をひっくり返して、船に見立てるなど、いろいろな方法で友だちと楽しく遊ぶ姿が見られた。(図18) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 教師も一緒に挑戦しながら活動を楽しむことで、より子どもたちの遊びを盛り上げていく。 ☆ 新しい鬼遊びを紹介することで、色鬼以外の他の鬼遊びにも興味が持てるようにし、皆で体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ◇ 跳び箱やマット、フープなど今回使った用具を全体での活動後に好きなように遊べるよう、時間の確保をし、教師も一緒に遊びを楽しむことで、遊びを盛り上げていく。
<p>12/22 (火) 実践No.4 【巧技台で遊ぼう!】 <ねらい> 巧技台を使っていろいろな遊びを楽しみ、巧技台遊びに興味・関心を持つ。 <内容> ・一本橋でどんじゃんけん ・巧技台サーキット</p> <p>あわてずゆっくり…</p>  <p>図19 後ろ歩きで挑戦!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分達で準備した巧技台を使って、すぐに今までの経験を活かした遊びが始まった。一本橋が設置されると、友だち同士誘い合ってどんじゃんけんを楽しむ姿が見られた。ルールを把握している子、ルールがよくわかっていない子、それぞれの姿が見られた。友だち同士でルールを教え合ったり、教師と一緒にゲームを進めることで楽しめるようになった。 ・ 巧技台をサーキット形式に形を変えると「面白そう!早くやってみたい!」とすぐに興味を示す子が多かった。最初は慎重に挑戦していたが、何度も繰り返すうちに自分なりの力を試そうと、後ろ向きで挑戦したり(図19)、ケンケンで挑戦したりと様々な方法で楽しむ姿が見られた。また、友だち同士で技を模倣し合う姿も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 活動を始める前に、前回の活動を子どもたちと振り返り、今日の活動の期待へとつなげる。 ◇ 活動に使う用具を子どもたちと一緒に準備を行い、子どもたちがすぐに遊び始めやすいように子どもの様子を見ながら巧技台を組み立てる。 ☆ どんじゃんけんのルールが把握できていない子には、教師が側につき、一緒にゲームを進め、楽しめるようにする。 ◇ 巧技台の形をサーキット形式にすることで、より遊びを楽しめるようにする。 ☆ 子どもたち一人一人が思い思いに挑戦できるように安全に気をつけながら遊びを見守る。 ☆ 自分なりの力に挑戦している姿を認め、「すごいね!こんなこともできるんだね!」と声をかけることで、挑戦意欲を高めていく。

【考察】

- 運動遊びを始める前に子どもたちと運動について話し合ったことで、運動への関心の高まりが見られ、活動に対しての意欲も見られた。活動後に子どもたちに運動後の体の様子を聞いてみると「(体をいっぱい動かして遊んだから)体が強くなっている!」「筋肉もりもりになってるよ!」と自信満々に答える子が多かった。
- 運動遊びに抵抗を示していた子も、活動内容にみんなで楽しめるゲーム的なものを多く取り入れることで、どの子も活動を楽しむことができたと思える。
- 子どもたちの動きに合わせて環境を構成することで、子どもたちなりの遊び方で遊びを楽しむ姿が見られた。環境の設定の仕方次第で子どもたちの活動意欲が違ってくることがわかった。
- 巧技台をサーキット形式にする等、活動内容を子どもたちが自分なりの力にあった方法で挑戦できるようにしたことで、どの子も活動を楽しむことができたと思われる。

3 検証保育 実践事例2

(1) 主題名

『忍者を目指していろいろな運動遊びに挑戦しよう!』

(2) 取り上げる題材名

『みんなで忍者修行の旅に出よう!』

(3) 主題設定の理由

【4歳児の発達の特性】

4歳児は“育ち盛り”の時期であり、生活や遊びの中で、全身を使い様々な活動を経験することで、より運動機能の発達を促し、数多くの運動技能を身につけていく時期でもあるとされている。

様々な活動を経験する中で、4歳児は活動への興味・関心を広げ、いろいろな事を“やってみたい”という気持ちを持ち、次第に“やってみよう”の気持ち（意欲）から“やってみよう”（態度）へと変わり、活動に意欲的になる。4歳児は、いろいろな活動に意欲的に取り組みながら、自分なりの力を獲得し、5歳児の発達へとつながっていく。

以上のことから、4歳児にとって様々な運動遊びを経験することは、運動への意欲を高めると共に身体諸機能の発達を促す上でも大切であると考えられる。

【クラスの幼児の姿】

入園当初の子どもたちの遊びの様子を見ると、戸外に出ることは大好きだが、遊びが長続きせず、しばらくすると室内に戻り、室内遊びを楽しむ子が多く見られた。

園生活に慣れてくると少しずつ戸外遊びの楽しさがわかりはじめ、固定遊具や砂場で遊ぶことが多くなってきた。しかし、思い切り体を動かして遊ぶ姿はあまり見られなかった。そこで、保育実践の中で、いろいろな運動遊びを経験できる内容を計画し、体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにしてきた。

これまでの実践の中で、縄やマット、跳び箱、巧技台などを使っていろいろな運動遊びに取り組んできたことで、体を動かすことを

楽しみ「もっとやりたい!」「次は何やるの?」と運動遊びに意欲的な子が多く見られた。また、子どもたちの動きを見ながら、遊びを展開することで、子どもたち一人一人が自分なりの方法で遊びを楽しんだり、友だちのやり方を見て模倣したりと、幼児自らが主体的に遊ぶ姿も見られるようになってきた。

【題材として取り上げた理由】

この時期の子どもたちは発表会の影響も受けて、イメージが豊かになっていると思われる。そこで、ただ単にいろいろな運動遊びに挑戦するのではなく、教師も子どもたちもみんなで忍者になりきって遊ぶことで、より子どもたちの意欲を高めることができると考える。

また、子どもたちが主体的に運動遊びに取り組めるように、これまでに取り組んできた運動遊びを総合的に取り入れた内容を考え、環境を構成する。その環境の中で、忍者修行を行うイメージを教師も子どもたちと一緒に持ち、遊びを展開していくことで、運動遊びの楽しさを味わうことができるのではないかと考え、本題材を取り上げた。

(4) 本時のねらい

- ① 先生や友だちと一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- ② いろいろな運動遊びに挑戦する楽しさを味わう。

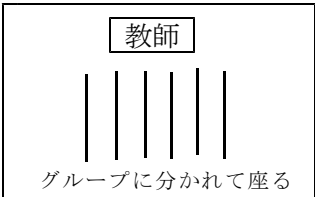

(5) 保育仮説

- ① 先生や友だちと一緒に忍者になりきって遊ぶことで、活動意欲が高まり、進んで体を動かして遊ぶようになるであろう。
- ② 活動の中で一つひとつの技をクリアできた喜びを味わうことで、進んでいろいろな運動遊びに挑戦しながら遊ぶようになるであろう。

(6) 本時までの取り組み（保育の展開）

活動の流れ	子どもの姿	教師の援助
<p>1/12（火）実践No.5 【忍者カードに挑戦①】</p> <p><ねらい> 忍者のイメージを持ち、忍者を目指しながら運動遊びに挑戦する楽しさを味わう。</p> <p><内容> ○忍者について子ども達と話し合う。 ○<u>マット（前回り）とけんぱ</u>に挑戦！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忍者の話を聞いて「忍者わかるよ！」とほとんどの子が答えていた。 ・ 忍者カードに興味を示し、「早くやってみたい！」と挑戦への意欲が見られた。 ・ マットでの前回りを初めて経験する子がほとんどで、最初はうまく回ることができなかったが、教師のアドバイスを聞いて次第に上手に回れるようになった。 ・ クリアのシールを忍者カードに貼ってもらうと「やった！きらきらシールもらえた！」と喜び、何度も同じものに挑戦する姿も見られた。 ・ マットをクリアしたことで自信を持ち、次のけんぱにも進んで挑戦する姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> * 子どもたちがどのくらい忍者について理解しているかを確認しながら、忍者について子どもたちと話し合う。 * より具体的に忍者のイメージを持てるように、『忍たま乱太郎』のDVDを子どもたちと一緒に視聴し、映像を見ながら、「すごいね！忍者ってこんなこともできるんだね！」や「足も速くて、体も強そうだね！」など、忍者のイメージがもてるような言葉かけをする。 * 子どもたちに忍者カードの説明と挑戦の仕方をわかりやすく話す。 * 子どもたちの頑張って取り組んでいる姿を認め、励まし、できた喜びを共感しながら、忍者カードへの挑戦を楽しめるようにする。
<p>1/14（木）実践No.6 【忍者カードに挑戦②】</p> <p><ねらい> できた喜びを味わいながら、運動遊びに挑戦する楽しさを味わう。</p> <p><内容> ○<u>縄跳びとぼっくり</u>に挑戦！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忍者カードを見ながら、きらきらシールを嬉しそうに数えたり、「あと、これとこれとこれシールもらえたら忍者になれる！」と前回よりも挑戦意欲が高まっている様子が見られた。 ・ 前回の時は、挑戦する前に「できないかも…」と不安そうにしている子も見られたが、今回は不安そうな姿はあまり見られず、積極的に挑戦する子が多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> * 一人一人カードの進み具合をチェックし、「きらきらシールが〇〇個だね！すごいね！」「あと△△と☆☆がクリアできたら忍者になれるね！」等と声をかけながらカードをそれぞれ配り、挑戦意欲を高める。 * 子どもたちの取り組みを援助しながら、子どもたち同士で応援し合ったり、友だち同士で楽しみながら挑戦できる雰囲気作りを心がける。
<p>1/18（月）実践No.7 【みんなでチャレンジ！】</p> <p><ねらい> みんなで忍者になって、いろいろな運動遊びに挑戦する楽しさを味わう。</p> <p><内容> ○忍者の衣装を着けて、<u>鉄棒（ぶたの丸焼き・すずめ・ぶら下がりに10秒）</u>に挑戦！ ○忍者の気分で運動遊びを楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忍者の衣装を着けると、「かっこいい！」と喜ぶ子もいれば、ちょっぴり恥ずかしそうにしている子も見られた。しかし、時間が経つとどの子も忍者の気分で忍者ごっこを楽しむ姿が見られた。 ・ 鉄棒の技にも積極的に挑戦し、見事クリアできると、他の技（ぼっくりやうんてい、ブランコ等）にも、友だちと忍者になりきって挑戦しながら遊びを楽しむ姿が見られた。 ・ いつもは戸外に出ると、すぐに砂場や泥団子作りのコーナーで遊びだす子が多いが、この日は、衣装を着けている間、体を思い切り動かして遊ぶ子が多く見られた。 ・ 活動後「また忍者になりたい！」という子が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> * 「みんな忍者カード頑張って、きらきらシールも増えてきたから、今日はね先生が忍者の学校から、忍者の衣装借りてきたよ！」と衣装を出す前に話をし、忍者への変身に期待が持てるようにする。 * 一人一人の忍者姿に「かっこいいね！似合っているね！何か技が使えるそうだね！」等の声かけをし、忍者気分を盛り上げる。 * 「忍者に変身したから何でもできそうだね！」と活動への意欲を高め、みんなで運動遊びに挑戦する。 * いろいろな技に挑戦している姿を認め、「すごいね！こんなこともできるんだね！」等の声かけをしながら、自信へとつなげていく。

(7) 検証保育指導案

日時	平成22年 1月19日(火) 9:00~10:15			
対象	うさぎ組(4歳児) 男児17名 女児13名 計30名	題材名	みんなで忍者修行の旅に出よう!	
ねらい	○先生や友だちと一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ○いろいろな運動遊びに挑戦する楽しさを味わう。			
保育仮説	○先生や友だちと一緒に忍者になりきって遊ぶことで、活動意欲が高まり、進んで体を動かして遊ぶようになるであろう。 ○活動の中で一つひとつの技をクリアできた喜びを味わうことで、進んでいろいろな運動遊びに挑戦しながら遊ぶようになるであろう。			
これまでの子どもの姿	いろいろな用具を使つての運動遊びや鬼遊びを楽しんできたことで、活動を楽しみにし、喜んで参加する姿が見られる。また、活動を繰り返す行う中で、自分の力を試したり、友だちのやり方を模倣して楽しんだり、子どもたちなりに工夫して遊ぶ姿も見られる。体を動かすことを嫌がる子はほとんど見られないが、他の遊び(砂場遊び、固定遊具遊び等)に興味に移り、活動途中に遊びから抜ける子がいる。			
時間	活動の流れ	☆教師の援助	○環境構成	
9:00	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレを済ませて、忍者の衣装を着ける ○忍者に変身して集まる(教室で集まる) ・グループごとに座る ・先生の話聞く ・今日の活動について話し合う <p>《環境設定》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>教師</p>  <p>グループに分かれて座る</p> </div>  <ul style="list-style-type: none"> ・靴を履いて園庭に出る 	<p>☆前日に子どもたちと翌日の忍者修行についての話し合いと、忍者になるための衣装を紹介し、当日は衣装を着けてから、集まるように説明しておく。</p> <p>○子どもたちが衣装を取り出しやすいように、種類別にかごに入れ用意しておく。</p> <p>☆忍者に変身してグループごとに座るよう、声をかける。</p> <p>☆これまで取り組んできた遊び(運動遊び)を振り返りながら、子どもたちのイメージを膨らませ、今日の活動に期待が持てるようにする。</p> <p>☆今日の活動の手順や、活動中の約束事を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>《手順》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①忍者先生(真衣先生)の見本を見て、みんなも同じ技に挑戦する→クリアした子に手裏剣 ②自分たちでいろいろな技に挑戦する ③今日の遊びの感想などを話し合う ④忍者修行を最後まで頑張った子に忍者メダルの表彰 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>《約束》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①用具の準備と片づけをみんなで頑張る ②先生の話や合図をよく聞く ③競争ではないので、ゆっくり挑戦する ④最後までみんなと一緒に活動を楽しむ </div> <p>☆あわてずに、靴を履いて園庭に出るよう、声をかける。</p>		

時間	活動の流れ	☆教師の援助 ○環境構成
9 : 1 0	○用具の準備をする <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・けんぱの輪（14本） ・巧技台（3段→4台） （6段→1台） ・一本橋（4本） ・マット（5枚） ・長縄 ・タンバリン </div>	☆安全に気をつけながら子どもたちと用具の準備を行う。 ○一本橋や二本橋，斜面登り，タンバリンジャンプの下に安全面を考慮して，マットを敷いておく。 ☆活動内容はこれまで取り組んできたものを取り入れ，どの子ども遊び方が分かりやすく，挑戦できやすいものにする。 ☆子どもたちが興味を持って活動に取り組めるように，教師も忍者になりきって，一緒にダンスを踊ったり，技の見本を見せたりする。 ☆教師の見本を見せたあと，グループごとに挑戦するよう声をかける。前のグループが2つ先の技を挑戦し終えたら，次のグループがスタートするように合図する。 ☆全てクリアできた子に忍者の証として手裏剣を贈呈し，忍者修行への意欲を高めていく。 ☆挑戦し終えたグループは，もとの場所で座って，他のグループが終わるまで待つように声をかける。 ☆頑張っている姿を認め，見守り，自分の力でクリアできるように励ましの言葉をかけていく。 （順番を待っているグループ，挑戦し終えたグループの子ども達からも，応援の言葉が出てくるような雰囲気を作る） ☆できた時には，教師も一緒に喜びを共感し，できた喜びを味わえるようにしていく。 ☆以前の子どもの取り組みの中で，どの子どももいろいろな方法で楽しんでいたことをみんなで思い出し，次は，自分たちなりの方法で挑戦することを提案する。 ○子どもたちの遊び方に合わせて，必要に応じてサーキットの形を変える。（※そのままでも楽しめている場合は変えない） ☆「この技すごいね！」「こんなこともできるんだね！」など，一人一人の取り組み方を認めるような声かけを心がけ，挑戦意欲を高めていく。 ☆教師も一緒にいろいろな遊び方に挑戦し，子どもたちと楽しむ。 ☆子どもたち一人一人が頑張っていたこと，遊びの中で工夫していたことなど，良さを認め，伝え合う。 ☆一人一人にメダルを贈呈し，できた喜びを共に味わうことで，今後の活動への意欲を高める。 ☆安全に気をつけながら，子どもたちと用具の片づけを行う。
9 : 2 0	○忍者修行を楽しむ *リズムをみんなで楽しむ ♪なんじゃもんじゃにんじゃ♪ *忍者先生の技に挑戦しよう!! <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ◇忍者先生（真衣先生）の見本を見て，子どもたちも同じ技に挑戦する </div> ≪内容≫ ①けんぱ→②鉄棒ぶら下がり（10秒）→③すべり台→④一本橋→⑤焼き芋ゴロゴロ（マット）→⑥綱渡り→⑦二本橋→⑧斜面登り→⑨タンバリンタッチ ★見事クリアできた子は，忍者の証（手裏剣）をもらう *自分たちでいろいろ挑戦してみよう!! <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ◇上記の内容を自分たちなりの方法で挑戦しながら楽しむ </div>	☆安全に気をつけながら子どもたちと用具の準備を行う。 ○一本橋や二本橋，斜面登り，タンバリンジャンプの下に安全面を考慮して，マットを敷いておく。 ☆活動内容はこれまで取り組んできたものを取り入れ，どの子ども遊び方が分かりやすく，挑戦できやすいものにする。 ☆子どもたちが興味を持って活動に取り組めるように，教師も忍者になりきって，一緒にダンスを踊ったり，技の見本を見せたりする。 ☆教師の見本を見せたあと，グループごとに挑戦するよう声をかける。前のグループが2つ先の技を挑戦し終えたら，次のグループがスタートするように合図する。 ☆全てクリアできた子に忍者の証として手裏剣を贈呈し，忍者修行への意欲を高めていく。 ☆挑戦し終えたグループは，もとの場所で座って，他のグループが終わるまで待つように声をかける。 ☆頑張っている姿を認め，見守り，自分の力でクリアできるように励ましの言葉をかけていく。 （順番を待っているグループ，挑戦し終えたグループの子ども達からも，応援の言葉が出てくるような雰囲気を作る） ☆できた時には，教師も一緒に喜びを共感し，できた喜びを味わえるようにしていく。 ☆以前の子どもの取り組みの中で，どの子どももいろいろな方法で楽しんでいたことをみんなで思い出し，次は，自分たちなりの方法で挑戦することを提案する。 ○子どもたちの遊び方に合わせて，必要に応じてサーキットの形を変える。（※そのままでも楽しめている場合は変えない） ☆「この技すごいね！」「こんなこともできるんだね！」など，一人一人の取り組み方を認めるような声かけを心がけ，挑戦意欲を高めていく。 ☆教師も一緒にいろいろな遊び方に挑戦し，子どもたちと楽しむ。 ☆子どもたち一人一人が頑張っていたこと，遊びの中で工夫していたことなど，良さを認め，伝え合う。 ☆一人一人にメダルを贈呈し，できた喜びを共に味わうことで，今後の活動への意欲を高める。 ☆安全に気をつけながら，子どもたちと用具の片づけを行う。
1 0 : 0 0	○集まる（園庭） ・今日の活動について感じたことを話し合う ・忍者メダル贈呈	☆安全に気をつけながら子どもたちと用具の準備を行う。 ○一本橋や二本橋，斜面登り，タンバリンジャンプの下に安全面を考慮して，マットを敷いておく。 ☆活動内容はこれまで取り組んできたものを取り入れ，どの子ども遊び方が分かりやすく，挑戦できやすいものにする。 ☆子どもたちが興味を持って活動に取り組めるように，教師も忍者になりきって，一緒にダンスを踊ったり，技の見本を見せたりする。 ☆教師の見本を見せたあと，グループごとに挑戦するよう声をかける。前のグループが2つ先の技を挑戦し終えたら，次のグループがスタートするように合図する。 ☆全てクリアできた子に忍者の証として手裏剣を贈呈し，忍者修行への意欲を高めていく。 ☆挑戦し終えたグループは，もとの場所で座って，他のグループが終わるまで待つように声をかける。 ☆頑張っている姿を認め，見守り，自分の力でクリアできるように励ましの言葉をかけていく。 （順番を待っているグループ，挑戦し終えたグループの子ども達からも，応援の言葉が出てくるような雰囲気を作る） ☆できた時には，教師も一緒に喜びを共感し，できた喜びを味わえるようにしていく。 ☆以前の子どもの取り組みの中で，どの子どももいろいろな方法で楽しんでいたことをみんなで思い出し，次は，自分たちなりの方法で挑戦することを提案する。 ○子どもたちの遊び方に合わせて，必要に応じてサーキットの形を変える。（※そのままでも楽しめている場合は変えない） ☆「この技すごいね！」「こんなこともできるんだね！」など，一人一人の取り組み方を認めるような声かけを心がけ，挑戦意欲を高めていく。 ☆教師も一緒にいろいろな遊び方に挑戦し，子どもたちと楽しむ。 ☆子どもたち一人一人が頑張っていたこと，遊びの中で工夫していたことなど，良さを認め，伝え合う。 ☆一人一人にメダルを贈呈し，できた喜びを共に味わうことで，今後の活動への意欲を高める。 ☆安全に気をつけながら，子どもたちと用具の片づけを行う。
1 0 : 1 0	○片付けをする	☆安全に気をつけながら，子どもたちと用具の片づけを行う。
評価の視点	○幼児一人一人が活動に興味・関心をもって，意欲的に取り組んでいただろうか。 ○教師や友だちと一緒に体を動かす活動を楽しんでいただろうか。 ○今日の活動を通して，体を動かす遊びへの意欲が高まったかどうか。	

(8) 保育仮説の検証

① 保育仮説1の検証

先生や友だちと一緒に忍者になりきって遊ぶことで、活動意欲が高まり、進んで体を動かして遊ぶようになるであろう。

【結果】

- 忍者の衣装を着けることで忍者の気分が盛り上がり、前日より「**忍法～の術!**」と言って忍者の仕草を真似て、運動遊びを楽しむ姿が見られた。また、教師も忍者に変身したことで、「**先生も忍者になってる!**」と嬉しそうにしていた。(図20)



図20 教師と一緒に忍者リズムを楽しむ♪

- 以前みんなで視聴した『忍たま乱太郎』の曲(♪100%勇氣)をBGMとして流すと、忍者のイメージがさらに膨らみ、子どもたちの動きも活発になった。
- 友だちの模倣をしたり、友だちと考えを出し合って、新しい技に挑戦することを楽しむ姿も見られた。

【考察】

- 子どもたちだけではなく、教師も一緒に忍者に変身したことで、子どもたちの教師と一緒に遊べる喜びが子どもたちの活動意欲を高めることにつながったと考える。
- 忍者の衣装や忍者に関するBGM、また、活動の中で教師の意図的な「忍法～術」の言葉かけや忍者の仕草を取り入れることで、忍者のイメージを膨らませることにつながり、活動への興味・関心を高め、同じイメージの中で、意欲的に体を動かす活動を楽しめるようになったと考える。

② 保育仮説2の検証

活動の中で一つひとつの技をクリアできた喜びを味わうことで、進んでいろいろな運動遊びに挑戦しながら遊ぶようになるであろう。

【結果】

- 忍者修行のサーキット最後のタンバリンタッチでは、思い切り叩くことで、全部クリアできたと嬉しそうな表情をしている子が多く見られた。(図21)



図21 タンバリンの高さを自分で決めて挑戦

- 忍者の証(手裏剣バッジ)を教師につけてもらうことで、「**やった!手裏剣もらえた!**」と喜び、自信を持って、いろいろな方法で忍者修行を楽しむ姿が見られた。
- 教師や検証保育を見に来ていた先生方に「**この技、前はできなかったけど、できるようになったんだよ。見ててね!**」と声をかけ、自信いっぱい技を披露する子も見られた。

【考察】

- 修行の最後にタンバリンタッチを取り入れ、全部クリアできたという喜びを味わえるようにすることで、幼児一人一人が活動に興味・関心を持ち、活動意欲が高まったと考える。
- 教師の言葉かけやクリアできたことを証明する手裏剣バッジや忍者メダルを用意することで、喜びを共感することができ、挑戦意欲を高めることにつながったと考える。
- 活動内容に今まで取り組んできたものを取り入れたことで、前回の遊び方を基に自分なりに工夫して挑戦する姿が見られ、体を動かす遊びへの意欲が高まったと考える。

Ⅷ 研究の考察

1 作業仮説(1)の検証

4歳児・5歳児の発達の特徴を踏まえた運動遊びの年間指導計画を作成し、意図的計画的な活動を展開することで、幼児は様々な運動遊びを経験し、運動遊びに対する興味・関心が高まるであろう。

(1) 手立て

- ① 4歳児・5歳児の発達について理論を深め、それぞれの発達にあった運動遊びを文献から調べ、子どもたちの実態に合わせて年間指導計画を作成する。
- ② 保育実践では指導計画の中から、運動遊びに興味を持つとされているⅣ期から、自分たちで遊びを進められるようになるとされているⅤ期を取り上げ、活動を展開する。

(2) 結果

① 検証保育(実践事例1)より

子どもたちの発達と実態に合わせて、簡単にどの子も楽しめそうな内容から取り入れて実践を行ってきたことで、次第にいろいろな用具を使った運動遊びに興味を示し、用具の準備から進んで行う姿が見られた。

用具の使い方を知ると、準備後にそれぞれの方法で遊びだす姿も見られ、実践を進めるうちに自分たちなりに工夫して遊ぶようになった。(図22)



図22 自分たちで考えた一本橋斜面後ろ歩き

② 検証保育(実践事例2)より

年間指導計画をもとに、幼児の実態に合

わせて、ごっこ遊び(忍者ごっこ)を運動遊びに取り入れたことで、共通のイメージの中で、どの子も運動遊びを思い思いに楽しむ姿が見られた。(図23)



図23 友だちと「焼き芋ゴロゴロの術」に挑戦

③ 検証保育前後の子どもの変容より

保育実践を始めた当初は、運動遊びに興味を示さず、砂場やブランコなど自分のやりたい遊びを楽しむ子がクラスに16%いた。様々な活動内容を計画し、なかなか興味を示さない子どもを中心に子どもたちと用具の準備を行ったり、一緒に運動遊びを行うことで、クラスの99%の子が運動遊びに興味を示し、楽しめるようになった。(図24)

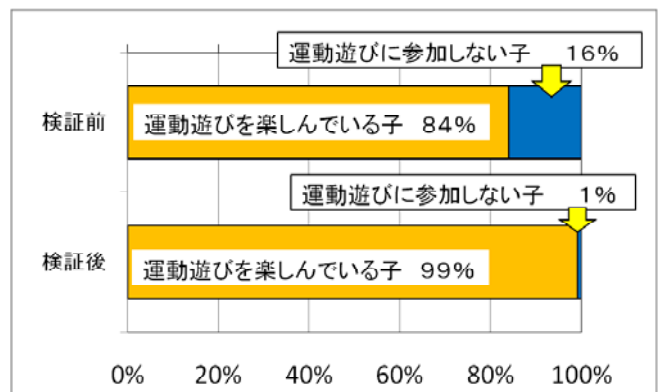


図24 運動遊びに対する子どもの変容

(3) 考察

- 実践対象である4歳児の発達と子どもたちの実態を踏まえた年間指導計画を作成し、意図的計画的に取り組むことで、どの子も無理なく運動遊びを楽しむことができたと考える。
- 運動遊びの活動の中で子どもたちが興味のあるような忍者ごっこを取り入れることで、運動遊びへの興味・関心を高め、楽しみなが

ら体を動かす活動の意欲へとつながったと思われる。

- 子どもたちと一緒に用具の準備から始めることで、運動用具に関心を示していた。それらの用具を使って様々な活動を展開することで、なかなか運動遊びへ興味を示さなかった子どもたちも少しずつ興味を示すようになったと思われる。

2 作業仮説(2)の検証

幼児が進んで体を動かして遊びたいくなるような活動内容や援助の工夫を行うことで、運動遊びの楽しさを知り、自ら体を動かして遊ぶようになるであろう。

(1) 手立て

- ① 様々な活動の中で、教師がモデルとなり、用具の使い方や用具を使った遊びの楽しさを伝えることで、子どもたちの運動遊びへの意欲を高める。
- ② 活動の中で、子どもたちの動き(遊びの様子)を見ながら、幼児が主体となるように活動を展開する。また、活動後に子どもたちが思い思いに用具を使って遊べるように時間を確保する。
- ③ 忍者ごっこの中で、4歳児の運動能力や子どもたちの実態に合わせた運動遊びチャレンジカード(忍者カード: 図25)を作成し、できた喜びを味わいながら運動遊びを楽しめるようにする。








☆にんじゃカード☆		うさぎくみ なまえ	
<p>★つぼろ★ ☆ふたのまるやき <input type="checkbox"/></p>  <p>☆すずめ <input type="checkbox"/></p> <p>☆ぶらさがり(10びょう) <input type="checkbox"/></p> <p>★ぶらんこ★ ☆まわってひとりごき <input type="checkbox"/></p>  <p>★けんぱ★ ☆けんぱ <input type="checkbox"/></p> 	<p>★なわとび★ ☆へびとび <input type="checkbox"/></p>  <p>☆なみとび <input type="checkbox"/></p> <p>☆おおなみこなみ <input type="checkbox"/></p> <p>★まっと★ ☆まえまわり <input type="checkbox"/></p>  <p>★ぼっくり★ ☆ぼっくりでおさんぽ <input type="checkbox"/></p>  <p>ぜんぶくりあてきたらきみはもうにんじゃでござるよ★</p> 		

図25 運動遊びチャレンジカード(忍者カード)

- ④ 個に応じた援助の工夫をそれぞれの動きの様子を見ながら、個別に考えていく。

ア 運動遊びに参加しない子には、用具の準備を一緒に行ったり、声をかけながら一緒に運動遊びを行い、少しずつ運動遊びを楽しめるようにしていく。

イ 活動途中から別の遊びに行ってしまう子には、はじめに取り組んでいた姿を認め、「すごいね!こんなこともできたね!」と褒めることで自信へとつなげ、自ら次の目標をもって運動遊びに取り組めるようにしていく。

ウ 活動中に友だちにちょっかいを出す子には、活動に集中できるように声をかけ、教師と一緒に挑戦しながら次々に運動遊びに挑戦する楽しさを味わえるようにしていく。

(2) 結果

① 検証保育(実践事例1)より

4歳児ということで、運動用具に初めて触れる子が多く、最初はどややって使うのか戸惑う様子も見られたが、教師がモデルとなって用具を使った遊びの楽しさを伝えることで、次第に子どもたちも興味を示すようになった。

様々な活動を重ねるごとに、自分達なりの遊び方を発見し、遊びを楽しめるようになった。実践始めは、教師の意図的活動が中心であったが、子どもたちの動きに合わせた活動内容に変えることで、さらに子どもたちの遊び方に工夫が見られ、遊びが盛り上がった。

子どもの発見とつぶやき

- * 「マットを丸くするとトンネルができたよ!」
(マットを使ってトンネル遊び)
- * 「跳び箱で船ができたよ!」
(跳び箱をひっくり返して船遊び)
- * 「(一本橋斜面登り)後ろ向きでも歩けるよ!」



② 検証保育(実践事例2)より

忍者ごっこを取り入れる前に、みんなで『忍たま乱太郎』のDVDを視聴したことで、共通のイメージを持つことができ、忍者カード

へも意欲的に取り組む姿が見られた。

また、4歳児の運動能力や子どもたちの実態に合わせて運動遊びチャレンジカード（忍者カード）を作成したことで、ほとんどの子が進んでカードに挑戦していた。（図26）技を一つクリアするごとに教師が「よく頑張ったね」「忍者にもうすぐなれるね」などの声かけを行うことで、子どもたちもできた喜びを味わったり、「早く忍者になりたい！」と忍者への憧れを示したりする姿が見られた。

また、忍者の衣装や忍者アニメのBGMを活動の中に取り入れることで、忍者のイメージもさらに膨らみ、楽しんで意欲的に活動するようになった。



図26 友だちと“ぼっくりでお散歩の術”に挑戦

③ N子の育ちより（個に応じた援助の一例）

集団で遊ぶことをあまり好まないN子は、運動遊びを始めるとすぐに全体の輪から外れ、別の遊びをやり始めていた。しかし、他の遊びをしながらも、みんなの様子が気になるようで、自分の遊びをしながら活動の様子を見ていた。N子の様子を見ながら声をかけ、みんなが活動が終わる頃にN子が運動遊びを始めたのを見計って、教師も一緒に活動を楽しむ。N子と一緒に活動しながら「上手だね!」「楽しいね!」などと声をかけたり、取り組んでいる姿を認めていくことで、次第に運動遊びの楽しさを味わえるようになってきた。

運動遊びに興味を示すようになってくると、今度は自分から進んで用具の準備を手伝ってくれるようになった。他児にもそのことを伝える

と、N子は嬉しかった様子で、少しずつ皆と一緒に活動を楽しめるようになってきた。

また、少し精神的に不安定なところも見られたこともあり、補充担任を通して、保護者との面談を行うことで、少しずつ気持ちが安定してきた。気持ちが安定してきたことにより、進んで運動遊びを楽しむようになり、他児とのかかわりも増えてきた。

(3) 考察

- 子どもたちが主体的に遊べるような環境構成や援助を工夫することで、活動意欲を高めることにつながり、自ら体を動かして遊ぶようになったと考える。
- 子どもたちの実態や興味・関心、運動能力にあった活動内容を工夫することで、一人一人が楽しめる活動となり、運動遊びの楽しさを味わうことができたと思われる。
- 個に応じた援助を心がけることで、運動遊びへの興味・関心を高めることができ、さらに運動遊びの楽しさを味わうことへつなげることで、次第に自ら活動を楽しむことができるようになったと考える。しかし、中には、まだ活動に集中できない子も見られるので、活動内容と個に応じた援助の工夫・改善が必要と感じた。

3 作業仮説(3)の検証

家庭との連携を図り、保護者にも体を動かすことの大切さや楽しさを知らせることで、家庭でも親子で楽しみながら、進んで体を動かして遊ぶようになるであろう。

(1) 手立て

- ① 保護者へのアンケートを実施し、家庭での子どもの様子と保護者の運動に関する考えを把握する。（11月に実施）
- ② クラスだよりにて、園での運動遊びの取り組みや子どもたちの様子、幼児期の運動遊びの大切さについて掲載し、保護者の運動に対する関心を高める。（図27）

神森幼稚園
うさぎ組
クラスだより

うさぎくみだより

号外
H22年2月5日(金)
松原 朝子

**1月19日(火)うさぎ組さん
みんなで忍者修行をしました♪**

うさぎ組保護者の皆様、お久しぶりです！お元気にお過ごしでしょうか？私が研究所に入所して、あっという間に4か月が過ぎました。これまで研究してきたことを基に、先月19日に幼稚園の園庭にて、うさぎ組の子ども達と共に研究保育の実践を行いました。研究所の先生方をはじめ、園長先生、紀子先生、真奈美先生（預かり担当）が見守る中、子ども達は伸び伸びと遊びを披露してくれました。緊張していたのは多分、私と真衣先生だけだったと思います。

今回の実践発表では、12月から子ども達と取り組んできたいろいろな運動遊び（縄遊び・マット遊び・跳び箱遊び・巧技台遊び等）と1月に入ってから始まった『忍者カード（運動遊びチャレンジカード）』をミックスした内容を取り入れ、みんなで楽しみました。

忍者修行の内容は…

① けんぼの術 → ② 鉄棒ぶら下がり術 → ③ すべり台の術 → ④ 一本橋渡りの術
⑤ 柄杓子ゴロゴロの術（マット） → ⑥ 綱渡りの術 → ⑦ 二本橋渡りの術
⑧ 一本橋坂道登りの術 → ⑨ タンリンタッチの術 ☆☆☆☆

上記の内容をまず真衣先生が見本を見せ、真衣先生と同じ通りにできた子は忍者として“手裏剣バッザ”をもらいました。そして、その次は、同じコースを今度は自分なりにアレンジ（例えば、一本橋を後ろ向きに歩く、マットで動回りに挑戦する、鉄棒でぶたの丸転ぎや前回りなどに挑戦する等）して、忍者修行を楽しみました。どの子も真衣先生先生の技を見事クリアし、2回目の自分なりの方法で行う際も、これまでの運動遊びの経験を生かして、いろいろな方法でそれぞれの技を究めていました。子ども達も自信たっぷりに、いろいろな先生方に「見てよ！」と進んで声をかけては技を披露していました。

実践を見に来たいらした先生方も「子ども達、すごく元気がある、伸び伸びと遊んでいるね！」ととても褒めていました。ますます、自信がついてきた子ども達、忍者修行の終わりの時に「次は（自分達の）お父さんお母さんに見てもらいたい！」と言う子がいっぱいいました。2月10日（水）に幼稚園で運動チャレンジ大会がありますので、ぜひご参加下さい。子ども達の忍者っぷりを見て下さいね☆

☆2月10日（水）運動チャレンジ大会では、遊戯室にて親子で忍者修行を行う予定です。子ども達と一緒に運動遊びを楽しみましょうね☆
（当日は動きやすい服装でいらして下さいね）

幼児期の運動遊びについて

※ 研究を進めていく中で私が知り得たことを保護者の皆様にもお伝えしますね☆

☆ 幼児期は、身体が著しく発育するとともに、運動機能が急速に発達する時期であり、また、日常生活に必要な様々な動きの基礎となる基本運動技能を獲得する時期でもあると言われています（＝幼児期は一生を共にする自分自身の体づくりの大切な時期）。そのため、幼児期に運動することはとても大切であると言えます。

↓
その他にも、体を動かす事でこんなメリットがあります！

① 感情をコントロールする力がつく
全身を使った運動を行うことで、脳の前頭葉の中の運動野が活性化され、それとともに同じ前頭葉の中にある感情をコントロールする前頭前野も活性化され、感情をコントロールする力（注意力・抑制力・判断力）がより強くなると言われています。

② 生活リズムを整えることにつながる
幼児の生活リズムは大きく分けて「遊び（特に体を動かした遊び）」「食事」「睡眠」で成り立っており、この3つはそれぞれ運動していると言われています。体を十分に動かして遊ぶことで食欲が進み、睡眠時間も多くなり、またそれが活力となって、運動意欲へとつながります。

③ 運動好きなき子を育てる
運動の好き嫌い、幼児期から小学校低学年頃にはっきりしてくることが多いと言われています。幼児期に遊びを通して、体を動かすことが楽しいと思える経験や、「できた」「できる」という経験を積み重ねていくことで、運動好きなき子を育てることへとつながります。

※ 子ども達の健やかな成長を願って、幼稚園においても家庭においても、体を動かす活動（運動）を多く取り入れることを、これから心がけていきたいものです☆
※ 子どもが一番運動遊びを楽しめるようにするコツは、「大人も一緒に楽しむこと！」です☆大人もどんでん体を動かしましょう！（健康維持のためにも…）

ご協力ありがとうございました!!

☆11月の運動遊びに関するアンケートへのご協力ありがとうございました。子ども達の家庭での遊びの様子と保護者の皆様の子ども達の運動に関する考えがよくわかりました。その中でも、各家庭で体を動かす工夫をしている点でいろいろなアイデアがありましたので、紹介しますね！

☆休みの日昼公園などで思いっきり体を動かして遊ぶようにしている。☆子どもが興味を持って運動に積極的になって楽しみながら体を動かしている。☆室内でも手押し車や逆立ち、ブリッジ、フープ、けんぼなどをして遊んでいる。☆室内遊びが多かったと思う日は、夕方から少しの時間外に連れ出すようにしている。☆定期的な散歩に行く。…など

毎日少しずつでも体を動かすことが大切です！家庭でも、無理なく楽しみながら運動できるといいですね！参考までに、資料も配布しますね☆

図27 園での取り組みや運動遊びに関する内容を記したクラスだより

③ 園行事の中で親子で体を動かす活動を取り入れ、実際に親子で体を動かす楽しさを体験できるようにする。

☆5月8日（金）保育参観日

→親子で触れ合い遊び

☆6月7日（日）幼小合同運動会

→親子ダンス（年中児）

♪けっきょくここは南極♪

☆10月3日（土）親子レクリエーション（図28）

→親子体操・障害物競争・菓子喰い競争・

じゃんけんゲーム・玉入れ・親子ダンス



図28 トンネルくぐりを楽しむ子どもたち♪

☆2月10日（水）運動チャレンジ大会

→親子でチャレンジ（年中児）

④ 個に応じた家庭との連携として、仕事を持つ保護者には、事前に行事等の日程を知らせ、できるだけ参加できるように呼びかける。また、子どもの園での様子を伝えることで、子どもの運動遊びへの関心の高さを知らせる。

(2) 結果

① 保育実践より～保護者とのかかわり～

年中児クラスということもあり、親子での行事が取り入れやすく、毎回参加者も20名余（29名中）で、活動への関心の高さを感じた。

初めての保育参観日に、親子で触れ合う遊びを取り入れたことで、まだ園生活に慣れていない子やゴールデンウィークの休み明けで不安定になっていた子も笑顔になり、気持ちが少し安定する姿が見られた。

今年度は運動会が6月ということで、年中児クラスは親子でダンスを行うことにした。本番当日に向けて、3週間前から、お迎え時

間の20分前に園に来ていただき、親子で練習を行った。最初は恥ずかしそうにしていた保護者ではあったが、練習を重ねるに連れ、子どもたちの嬉しそうな表情に喜びを感じ、一緒に元気いっぱい踊れるようになった。運動会当日も大勢の観客の中、楽しく親子でダンスを踊る姿が見られた。

10月に行われた親子レクリエーションでは、土曜日ということもあり、家族みんなで参加する姿も多く見られた。お父さんとお母さんが代わる代わる競技に参加し、子どもたちもとても満足そうにしていた。保護者から「疲れた～」の第一声は多かったものの、その後笑顔で「でも楽しかった～」という方がほとんどだった。子どもたちに後日感想を聞いてみると、「全部楽しかった!」「またやりたい!」と嬉しそうに話していた。

2月の運動チャレンジ大会では、子どもたちが今まで取り組んできた運動遊びを総合的に保護者の皆さんに紹介すると共に、同じ内容を親子でチャレンジできるように設定した。子どもたちも喜んで、自分達ができるようになったものを何度も何度も保護者に披露していた。恥ずかしがって、挑戦するのを躊躇する保護者も多かったが、子どもたちと縄跳びをしたり、一本橋斜面登りやタンバリンタッチに挑戦したりと保護者なりに積極的に子どもたちと関わって遊ぶ姿が見られた。(図29)



図29 親子で縄跳びに挑戦!!

② アンケート調査より (2月10日に実施)

※運動遊びチャレンジ大会参加者22名対象

【回答率】76% (保護者の回答から一部抜粋)

1. 今日の子どもの様子(運動遊びをしている姿)を見てどうでしたか?

- ☆知らないうちにいろいろなことが出来ていてビックリしました。
- ☆楽しく運動遊びをしている様子が伝わった。
- ☆転んでもまたチャレンジしていて見ても楽しかった。
- ☆とても元気に(イキイキと)動いて楽しそうでした。
- ☆以外に運動神経があると思いました。

2. 子どもたちと体を動かして遊んでみてどうでしたか?

- | | |
|------------|-------|
| (1)楽しかった | (20名) |
| (2)ふつう | (2名) |
| (3)楽しくなかった | (0名) |

- ☆普段体を動かすことが少ないので、楽しく過ごせました。
- ☆気分転換になりました。たまには家でもしなきゃと思いました。
- ☆子どもといろいろなことにチャレンジできて良かった。
- ☆お兄ちゃんや妹がいるので、日頃一緒に体を動かすことがなかったので良かったです。嬉しそうでした。

3. 前回のアンケート(11月に実施)を行った後から、いろいろな運動遊びを幼稚園で取り組んできましたが、お子さんは以前に比べて運動が好きになっていると思いますか?

- | | |
|-----------|-------|
| (1)そう思う | (20名) |
| (2)変わらない | (2名) |
| (3)苦手になった | (0名) |

**4. 今後、ご家庭でも体を動かす遊び
(活動)を意識して取り入れよう
と思いますか？**

- (1) と思う (21名)
 (2) わからない (0名)
 (3) そう思わない (1名)

(1) そう思うと答えた方の意見

☆なるべく公園や外で遊ぶ時間を増やしたい。
 ☆「後でね」「お母さん忙しい」と言わない
 ようにして、とにかくすぐにはできる遊び
 (けんぱ！など)を取り入れたい。
 ☆忍者ごっこを家でもやっています！
 ☆お兄ちゃんがサッカーをしているので、
 一緒にボール遊びなど、あと前転とかも
 家でさせてみたい。

(3) そう思わないと答えた方の意見

☆ (普段から体を動かして遊んでいるので)
 普段通り、自分でいろいろなことに挑戦
 してほしい。

③ 個に応じた家庭との連携より

仕事を持つ保護者へ、個別に連携を取り、
 事前に行事等の日程を知らせることで、全日
 程に参加することは難しいながらも、保護者
 のできる範囲で行事への参加をする姿が見ら
 れた。

また、子どもの園での運動遊びの取組み
 の様子を伝えることで、子どもの運動遊びへ
 の関心の高さを知り、家庭でも親子で運動遊
 びに取り組もうとする意識が見られた。

(3) 考察

- 11月に実施したアンケート結果から(研究
 内容3の中で記載)も、保護者の子どもたち
 の運動に関する意識が高かったこともあり、
 クラスだよりや行事等を通して、保護者と運
 動遊びに関する共通理解を持つことができ、
 運動への関心を更に高めることにつながった
 と思われる。
- 親子で実際に活動を行うことで、保護者に
 子どもたちが運動遊びを楽しんでいる姿を伝

えることができ、また保護者自身も楽しいと
 感じる事ができ、家庭での体を動かす活動
 への意識が高まったと考えられる。

- 実践後のアンケートの項目(4)の中で、「そ
 う思わない」の回答結果より、両親共働きの
 家庭においては、親子で体を動かす活動の意
 義を今後も伝えていく必要があると思われる。
- 個別に連携が必要と思われる家庭と連絡を
 取り合うことで、園での子どもの運動遊びへ
 の取り組みに変容が見られたと共に、保護者
 の意識も少しずつ高めることができたと考え
 える。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 幼児の発達の特性を踏まえた運動遊びに関
 する年間指導計画を作成し、様々な運動遊び
 を経験できるような活動を展開したことで、
 幼児の運動遊びへの興味・関心が高まり、活
 動を楽しめるようになった。
- (2) 幼児の実態や興味に合わせて、幼児主体で
 活動を楽しめるように、活動の内容や援助の
 工夫を行うことで、幼児が運動遊びの楽しさ
 を知り、自ら体を動かして遊ぶようになった。
- (3) 家庭との連携を図り、保護者にも体を動か
 すことの大切さを伝え、また、園行事等を通
 して、実際に親子で体を動かす楽しさを味わ
 うことで、家庭での親子で体を動かす活動へ
 の意識に高まりが見られた。

2 課題

- (1) 4歳児・5歳児の運動遊びに関する年間指
 導計画を職員の共通理解を基に更なる工夫と
 改善。
- (2) 幼児が更に興味を持って戸外での運動遊び
 を楽しめるような活動内容や環境構成の工夫。
- (3) 幼児の動きを見通した安全面の留意と幼児
 理解に基づいた個に応じた援助の工夫。
- (4) 運動に関する家庭との継続的な連携の工夫。

おわりに

近年子どもたちの運動能力の低下はますます深刻になってきています。研究を進めていくうちに、幼児期の運動が、子どもたちの体と心の成長にとってどれだけ大切かということの思い知らされました。また、援助や環境の工夫次第で子どもたちが運動遊びを好きになり、進んで体を動かして遊ぶようになることも実感することができました。これからも運動好きな子を育てられるように、半年間の研究の中で学んだ理論や実践を今後の保育に生かし、さらに深めていきたいと思えます。

研究期間中、ご多忙の中、励ましご指導下さいました浦添市教育委員会の高江洲弘美指導主事、沢岬幼稚園の石嶺篤子先生、入所前の事前研修より親切丁寧に指導下さり、いつでも温かく励まして下さいました本研究所の宮城むつみ所長、比嘉清喜係長、島袋優指導主事、ICT支援員の比嘉進様に深く感謝申し上げます。職員の皆様にも大変お世話になりました。また、テーマ検討会などで様々な角度からご助言下さいました浦添市教育委員会の諸先生方にも心より感謝申し上げます。

最後に、研究の機会を与え支援して下さいました神森幼稚園の新川文雄園長をはじめ、いつも温かく励まして下さった諸先生方、半年間の研究を共に支えて下さった同期の研究員の金城園美先生、井村えりか先生に心より感謝申し上げます。

＜ 主な参考・引用文献 ＞

『幼稚園教育要領解説』	文部科学省	フレーベル館	2008
『幼稚園教育要領ハンドブック』	無藤 隆 監修	学習研究社	2008
『幼児教育の原則』	無藤 隆 著	ミネルヴァ書房	2009
『3・4・5歳児の指導計画』	高橋保子 著	教育出版	2007
『保育と幼児期の運動あそび』	岩崎洋子 他	萌文書林	2008
『0～5歳児の運動あそび指導百科』	前橋 明 著	ひかりのくに	2004
『演習保育講座 6 保育内容 健康』	森上史朗 他	光生館	1996
『保育内容研究シリーズ 1 健康』	近藤充夫 編著	ひかりのくに	1990
『体育あそび120』	近藤充夫 監修	チャイルド本社	1979
『望ましい経験や活動シリーズ第20巻 運動・安全』	岡田正章 他	チャイルド本社	1981
『運動遊び300』	安藤 幸 他	チャイルド本社	1985
『幼稚園わかりやすい指導計画作成のすべて』	柴崎正行 編著	フレーベル館	1996
『保育月刊紙 ポット』		チャイルド本社	2009
『運動遊び通信』	豊岡市教育委員会ホームページ		2006~2009